

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホジツン テダカガクイン 学校法人 帝塚山学院									
フリガナ大学の名称	テダカガクインダガク 帝塚山学院大学									
大学本部の位置	大阪府堺市南区晴美台4丁2番2号									
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、「力の教育」、すなわち意志の力、情の力、知の力、躯幹の力を含む全人教育を以って有為な人材を社会に送り出すという帝塚山学院建学の精神を継承しながら、豊かな教養を身につけ自学自習の教育によって求知心を育み、社会に貢献し得る品性高い人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	多様化、複雑化が進み、様々な問題や課題が山積する現代社会において、本学で身に着けた豊かな教養を基盤に、心理学の知識、技能を理論的かつ実践的に展開する能力を習得するとともに、これらを生かし社会の多様な分野で活躍可能な人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	総合心理学部 総合心理学科 計	4年	130人	—人	520人	学士(心理学)	令和6年4月 第1年次	大阪府堺市南区晴美台 4丁2番2号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	食環境学部 ※令和6年4月設置（令和5年4月届出） 食イノベーション学科（40） 管理栄養学科（80） 人間科学部（廃止） ※令和6年4月学生募集停止 心理学科（△130） 食物栄養学科（△120）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	総合心理学部総合心理学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	総合心理学部 総合心理学科		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任
				9人	1人	3人	—人	13人	—人	77人
				(9)	(1)	(3)	(—)	(13)	(—)	(48)
		食環境学部 食イノベーション学科		5人	1人	2人	—人	8人	—人	70人
			(5)	(1)	(2)	(—)	(8)	(—)	(48)	
	食環境学部 管理栄養学科		4人	3人	2人	—人	9人	—人	60人	
		(4)	(3)	(2)	(—)	(9)	(—)	(44)		
計		18人	5人	7人	—人	30人	—人	—人		
		(18)	(5)	(7)	(—)	(30)	(—)	(—)		
既設	リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科		18人	6人	3人	—人	27人	—人	60人	
			(18)	(6)	(3)	(—)	(27)	(—)	(44)	
計		18人	6人	3人	—人	27人	—人	—人		
		(18)	(6)	(3)	(—)	(27)	(—)	(—)		
合計		36人	11人	10人	—人	57人	—人	—人		
		(36)	(11)	(10)	(—)	(57)	(—)	(—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		35人		16人		51人			
			(35)		(16)		(51)			
	技術職員		0人		0人		0人			
			(0)		(0)		(0)			
図書館専門職員		1人		7人		8人				
		(1)		(7)		(8)				
その他の職員		0人		15人		15人				
		(0)		(15)		(15)				
計		36人		38人		74人				
		(36)		(38)		(74)				

校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	帝塚山学院泉ヶ丘 中学高等学校(必 要面積 運動場 8,400㎡)と共用 (収容定員:1320 人)				
	校舎敷地	16,973.45㎡	0㎡	15,756.83㎡	32,730.28㎡					
	運動場用地	4,273.02㎡	6,358.00㎡	4,823.70㎡	15,454.72㎡					
	小 計	21,246.47㎡	6,358.00㎡	20,580.53㎡	48,185.00㎡					
	そ の 他	6,645.00㎡	0㎡	0㎡	6,645.00㎡					
合 計	27,891.47㎡	6,358.00㎡	20,580.53㎡	54,830.00㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		16,973.71㎡ ( 16,973.71㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	16,973.71㎡ ( 16,973.71㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	30室	10室	29室	1室 (補助職員 2人)	0室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		総合心理学部総合心理学科		11 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	総合心理学部 総合心理学科	49184 [2034] (46371 [1998])	24 [ 21] ( 24 [ 21])	2 [ 2] ( 2 [ 2])	1444 ( 1424)	49 ( 41)	0 ( 0)			
	計	49184 [2034] (46371 [1998])	24 [ 21] ( 24 [ 21])	2 [ 2] ( 2 [ 2])	1444 ( 1424)	49 ( 41)	0 ( 0)			
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体			
	1,391.84㎡	110席		183,180冊						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体			
	1,797.28㎡	フィットネスルーム		テニスコート						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体
		教員1人当たり研究費等		350,000	350,000	350,000	350,000	—	—	
		共同研究費等		1,615,000	1,615,000	1,650,000	1,700,000	—	—	
		図書購入費	2,872,975	2,900,000	2,950,000	3,000,000	3,050,000	—	—	
		設備購入費	7,820,269	13,160,269	9,020,269	5,580,269	4,890,269	—	—	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,460千円	1,210千円	1,210千円	1,210千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既設大学の状況	大 学 の 名 称	帝塚山学院大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科	4	120	-	480	学士(リベラルアーツ)	1.25	平成21年度	大阪府堺市南区晴美台4丁2番2号	
	人間科学部 キャリア英語学科	4	-	-	-	学士(キャリア英語)	1.00	平成27年度	大阪府堺市南区晴美台4丁2番2号	※令和2年度より学生募集停止(キャリア英語学科) ※令和2年度より学生募集停止(情報メディア学科)
	情報メディア学科	4	-	-	-	学士(情報メディア)	-	平成21年度		
心理学科	4	130	-	520	学士(心理学)	1.12	平成21年度			
食物栄養学科	4	120	-	480	学士(食物栄養)	0.92	平成18年度			
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																	
(総合心理学部総合心理学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基盤教育科目	導入学習	基礎演習Ⅰ	1前		1			○			9	1	3			共同 共同 共同 共同	
		基礎演習Ⅱ	1後		1			○		9	1	3					
		基礎演習Ⅲ	2前		1			○		9	1	3					
		基礎演習Ⅳ	2後		1			○		9	1	3					
		日本語表現法	1・2前	2				○		1						兼3	
		カレッジコミュニティⅠ	1・2通		2				○				1			兼4	共同
		カレッジコミュニティⅡ	2・3通		2				○				1			兼3	共同
		読書演習	2・3後		2				○		1					兼1	
	小計(8科目)	—	2	10	0			—		9	1	3	0	0	兼6		
A群 (先人の知を受けつぐ)	思想の世界	1・2前		2			○			1					兼1	メディア	
	日本の歴史	1・2前		2			○								兼1	メディア	
	民族と文化	1・2後		2			○								兼1		
	ことばの世界	1・2前後		2			○			1							
	日本語を知る	1・2前後		2			○								兼2		
	教養としての日本文化	1・2前後		2			○								兼1	メディア	
	西洋の文化を考える	1・2後		2			○								兼1		
	子どもの文化	1・2後		2			○								兼1		
	芸術を鑑賞する	1・2後		2			○								兼1		
	伝統文化演習	2・3前後		1				○							兼1		
B群 (世界と今を読み解く)	日本の憲法	1・2後		2			○								兼1	メディア	
	くらしと法律	1・2前		2			○								兼1		
	現代社会を考える	1・2前後		2			○			1					兼1		
	東アジアを知る	1・2前		2			○								兼1		
	人権を考える	1・2後		2			○			2					兼1		
	平和を考える	1・2前		2			○								兼1		
	メディアを考える	1・2後		2			○			1					兼1		
	情報リテラシー	1・2前		2			○								兼1		
	心理学	1・2前後		2			○					1			兼1		
	くらしと化学	1・2後		2			○								兼1		
	生物を知る	1・2前後		2			○								兼2		
データリテラシー	2・3前後		2				○					1					
社会と言語	2・3前		2			○			1						メディア		
C群 (未来をひらく)	科学と倫理	1・2後		2			○								兼1	メディア <small>オムニバス/メディア</small>	
	ソーシャルメディア論	1・2後		2			○								兼1		
	先端技術と文化	1・2後		2			○								兼5		
	健康を管理する	1・2前後		2			○								兼3		
	書いて学ぶ文芸	1・2後		2				○							兼1		
	描いて学ぶアート	1・2前		2				○							兼1		
	健康とスポーツA	1・2前		1					○	1					兼2		
	健康とスポーツB	1・2後		1					○	1					兼2		
	生涯スポーツ実習A	2・3前		1					○	1							
	生涯スポーツ実習B	2・3後		1					○	1							
教育を考える	1・2前		2			○			1								
キャリア形成	キャリアデザインⅠ	1・2前	2				○								兼3		
	キャリアデザインⅡ	1・2後	2				○								兼3		
	ホスピタリティ入門	1・2後		2			○								兼1		
	数理リテラシー	2・3前		2			○								兼4		
	キャリアデザインⅢ	2・3前		2			○								兼1		
	キャリアデザインⅣ	2・3後		2			○								兼1		
	インターンシップA	2・3通		2				○							兼1		
	インターンシップB	3・4通		2				○							兼1		
プロジェクト型インターンシップ	3・4通		2				○							兼2	共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語	総合英語Ⅰ1	1・2前	1				○								兼5	
	総合英語Ⅰ2	1・2後	1				○								兼5	
	総合英語Ⅱ1	2・3前	1				○								兼5	
	総合英語Ⅱ2	2・3後	1				○								兼5	
	実践コミュニケーション英語Ⅰ1	1・2前	1				○								兼5	
	実践コミュニケーション英語Ⅰ2	1・2後	1				○								兼5	
	実践コミュニケーション英語Ⅱ1	2・3前	1				○								兼5	
	実践コミュニケーション英語Ⅱ2	2・3後	1				○								兼5	
	資格英語Ⅰ	1・2前		1			○								兼2	
	資格英語Ⅱ	1・2後		1			○								兼2	
	フランスのことばと文化Ⅰ	2・3前		2			○								兼1	
	フランスのことばと文化Ⅱ	2・3後		2			○								兼1	
	中国のことばと文化Ⅰ	2・3前		2			○								兼1	
	中国のことばと文化Ⅱ	2・3後		2			○								兼1	
	韓国のことばと文化Ⅰ	2・3前		2			○								兼1	
韓国のことばと文化Ⅱ	2・3後		2			○								兼1		
情報処理	情報活用基礎A	1・2前後	1				○					1			兼2	
	情報活用基礎B	1・2前後	1				○					1			兼2	
	情報活用A	1・2前後		1			○								兼1	
	情報活用B	1・2前後		1			○								兼1	
	プログラミング言語Ⅰ	1・2前		2					○						兼1	
	プログラミング言語Ⅱ	1・2後		2					○						兼1	
	データサイエンス・AI概論	1・2後		2			○								兼1	
	データサイエンス・AI実習	3・4前		2					○						兼1	
資格基礎	図書館概論	1・2前		2			○								兼1	
	図書館情報資源概論	1・2後		2			○								兼1	
	博物館概論	2・3前		2			○								兼1	
	博物館経営論	2・3後		2			○								兼1	
	生涯学習概論Ⅰ	2・3前		2			○								兼1	
	生涯学習概論Ⅱ	2・3後		2			○								兼1	
	レクリエーション概論	2・3前		2			○								兼1	
	レクリエーション実技	2・3後		1				○							兼1	
	レクリエーション現場実習	3・4通		1					○						兼1	
小計(76科目)	—	14	117	0	—	—	—	—	3	0	1	0	0	兼46		
学科専門科目	基礎科目	心理学基礎実験Ⅰ	1・2前		1				○		1				兼5	共同
		心理学基礎実験Ⅱ	1・2後		1				○		1				兼5	共同
		心理学概論Ⅰ	1・2前	2				○			1	1				
		心理学概論Ⅱ	1・2後	2				○			1	1				
		心理調査概論	1・2前		2			○				2				
		心理学統計法Ⅰ	1・2後	2				○								兼1
		解剖生理学	1・2前		2			○			1					
		公衆衛生学	1・2後		2			○								兼1
	小計(8科目)	—	6	8	0	—	—	—	—	2	0	3	0	0	兼7	—
基幹科目	心理学・行動科学群	心理学実験	2・3前後		2				○				1		兼5	共同
		心理統計実習Ⅰ	2・3前		1				○						兼1	
		心理統計実習Ⅱ	2・3後		1				○						兼1	
		心理学統計法Ⅱ	2・3後		2			○			2		1			兼2
		心理学研究法	2・3通		4			○			2					兼1
		心理的アセスメント	2・3通		4			○			2	1	1			兼1
		臨床心理学概論Ⅰ	2・3前		2			○			1					兼1
		臨床心理学概論Ⅱ	2・3後		2			○			1					兼1
		感情・人格心理学Ⅰ	2・3前		2			○			1	1				メディア
		感情・人格心理学Ⅱ	2・3後		2			○			1	1				メディア
		発達心理学Ⅰ	2・3前		2			○								兼1
		発達心理学Ⅱ	2・3後		2			○								兼1
		教育・学校心理学	2・3後		2			○								兼1
学習・言語心理学	2・3前後		2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	行動心理学	2・3前後		2		○			1						メディア
	産業心理学概論	2・3前後		2		○			1					メディア	
	健康・医療心理学Ⅰ	2・3前		2		○			1						
	健康・医療心理学Ⅱ	2・3後		2		○			1						
	人体の構造と機能及び疾病	2・3後		2		○			1						
	地域援助論Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
	地域援助論Ⅱ	2・3後		2		○								兼1	
	文化人類学Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
	文化人類学Ⅱ	2・3後		2		○								兼1	
	心理学英語文献講読A	2・3前		2				○							兼1
心理学英語文献講読B	2・3後		2				○		1						
こども学・健康発達科学群	栄養学	2・3前		2		○									兼1
	生涯スポーツ論	2・3前		2		○			1						兼1
	社会保障論	2・3前		2		○									兼1
	公的扶助論	2・3後		2		○									兼1
	社会福祉原論Ⅰ	2・3前		2		○									兼1
	社会福祉原論Ⅱ	2・3後		2		○									兼1
	こどもとジェンダー	2・3前		2		○			1						
	こどもと教育の社会学	2・3後		2		○			1						
	こども学	2・3前		2		○			1						
	こどもと遊び	2・3後		2		○				1					兼1
こどもと表現	2・3後		2		○										
社会教育経営論Ⅰ	2・3前		2		○			1							
社会教育経営論Ⅱ	2・3後		2		○			1							
小計(38科目)		—	0	78	0	—			8	1	2	0	0	兼21	—
展開科目	臨床心理学	3・4通		2				○	1		1				兼1
	心理学的支援法A	3・4前		2		○			1						メディア
	心理学的支援法B	3・4後		2		○			1						メディア
	思春期青年期心理学	3・4前		2		○				1					メディア
	家族心理学Ⅰ	3・4前		2		○									兼1
	家族心理学Ⅱ	3・4後		2		○									兼1
	司法・犯罪心理学	3・4後		2		○									兼1
	異常心理学	3・4前後		2		○			1						
	精神疾患とその治療	3・4前		2		○			1						
	精神医学特講	3・4後		2		○			1						
	神経・生理心理学	3・4前		2		○			1						メディア
	知覚・認知心理学	3・4後		2		○			1						メディア
	産業・組織心理学	3・4前後		2		○			1						メディア
	社会・集団・家族心理学Ⅰ	3・4前		2		○					1				
	社会・集団・家族心理学Ⅱ	3・4後		2		○					1				
	産業心理学実習	3・4前		1					○	1					
	社会心理学実習	3・4後		2					○		1				
	マーケティング心理学	3・4前		2		○			1						
	消費者行動論	3・4前		2		○			1						
	心理学英語文献講読C	3・4前		2				○	1						
公認心理師の職責	4前		2		○									兼1	
関係行政論	4前		2		○									兼1	
心理実習(臨床心理学現場実習)Ⅰ	4前		1				○	2	1	1				共同	
心理実習(臨床心理学現場実習)Ⅱ	4後		1				○	2	1	1				共同	
こども学・健康発達科学群	障害者・障害児心理学Ⅰ	3・4前		2		○									兼1
	障害者・障害児心理学Ⅱ	3・4後		2		○									兼1
	こどもとスポーツ	3・4前		2				○	1						
	こどもマーケティング	3・4前		2				○	1						
	スポーツ心理学	3・4後		2		○									兼1
	ポジティブ心理学	3・4前		2		○									兼1
老年学	3・4前		2		○									兼1	
福祉心理学	3・4後		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
A群	精神保健	3・4前		2		○			1						兼1 兼1
	生涯学習支援論Ⅰ	3・4前		2		○									
	生涯学習支援論Ⅱ	3・4後		2		○									
	社会教育課題研究	3・4後		2				○	1						
	地域連携実践演習A	3・4前		2				○	1						
	地域連携実践演習B	3・4後		2				○	1						
	社会教育演習	4前		1				○	1						
	社会教育実習	4前		1				○	1						
小計(40科目)		—	0	73	0	—	—	—	6	1	2	0	0	兼11	—
演習科目	専門演習Ⅰ	3・4前	2					○	7	1	2				
	専門演習Ⅱ	3・4後	2					○	7	1	2				
	卒業演習Ⅰ	4前	2					○	7	1	2				
	卒業演習Ⅱ	4後	2					○	7	1	2				
	卒業研究	4通		4				○	7	1	2				
小計(5科目)		—	8	4	0	—	—	—	7	1	2	0	0	—	—
合計(175科目)		—	30	290	0	—	—	—	9	1	3	0	0	兼77	—
学位又は称号		学士(心理学)			学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係、体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
卒業要件は、基盤教育科目(導入学習2単位必修、A・B・C群から各2単位選択必修、キャリア形成4単位必修、外国語8単位必修、情報処理2単位必修を含む)計28単位。 学科専門科目(基礎科目6単位必修、基幹科目24単位選択必修、展開科目、さらに演習科目8単位必修を含む)計76単位。 関連科目として、基盤教育科目、学科専門科目の余剰単位その他20単位以上、合計124単位を修得すること。 (履修科目の登録の上限：44単位(年間))							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		14週						
							1時限の授業時間		100分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(総合心理学部総合心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	導入科目	基礎演習Ⅰ	ノートテイキング、リーディング、レポート作成など、大学での学びに必要な基礎スキルを実践的に修得する。また、自己の特性や志向を理解し、テツカポートフォリオ上で学修成果を整理する活動も授業内で行う。授業を通して、大学生としての学びを能動的に行っているよう、学修に臨む基礎的な知識・態度、学修成果の基礎的な表現方法等を修得し、また自己の特性や志向を客観的に理解して自分なりの目標を立てる力を養う。なお、アドバイザー教員は、授業内外の情報を把握し、各学生に応じた指導・支援を行う。	共同
		基礎演習Ⅱ	プレゼンテーションを中心に、大学での学びに必要な基礎スキルを実践的に修得する。また、テツカポートフォリオ上で自己の学修と大学生活を振り返り、自己の目標を見直す活動も授業内で行う。授業を通して、大学生としての学びとキャリア形成を能動的に行っているよう、学修に臨む基礎的な知識・態度、学修成果の表現方法を修得し、また入学以降の学修と大学生活を振り返り自己の目標を見直すことができる力を養う。なお、アドバイザー教員は、授業内外の情報を把握し、各学生に応じた指導・支援を行う。	共同
		基礎演習Ⅲ	学科の専門性を生かした課題を扱い、調査・思考の結果をまとめて適切に表現する力を養う。また、学科の専門的な学びの中で今後進むべき方向性を各自が考えていく活動も行う。加えて、全学科共通の内容として、課題解決のために他者と協働して活動するスキルや、論理的思考と問題解決のスキル等についても学修する。授業を通して、大学生活後半の専門的な学びとキャリア形成に接続できるよう、課題を論理的に考える力、学修成果を適切に表現できる力、他者と協働して活動する力を修得する。また、自らのキャリアイメージを背景に、大学での残された期間の活動について主体的に考えられる力を養う。なお、アドバイザー教員は、授業内外の情報を把握し、各学生に応じた指導・支援を行う。	共同
		基礎演習Ⅳ	ゼミ体験等を通して、3年次以降の専門的な学びへの準備活動を実践的に行う。また、今後進むべき方向性を各自が考えていく活動も行う。加えて、全学科共通の内容として、課題解決のために他者と協働してアイデアを発見・整理していくスキルを養う活動も行う。授業を通して、大学生としての学びとキャリア形成を能動的に行っているよう、専門的な学びに向かう基本的姿勢、学修成果の適切な表現方法、他者と協働して活動する力を修得し、また入学以降の学修と大学生活を振り返り自己の目標を見直すことができる力を養う。なお、アドバイザー教員は、授業内外の情報を把握し、各学生に応じた指導・支援を行う。	共同
	日本語表現法	的確に内容の伝わるメールとは、どのようなものなのか、文章をわかりやすく書くためには、どうすればいいのか、文章を美しく、効果的に見せるためには、どんなレイアウトがよいのか。さまざまな局面を想定して実際に文章を書きながら、考えて行く。同時に、日本語の基礎知識を修得するために、eラーニングを使って課題に取り組む。大学で学修を進めていく上で、また、社会において自立した人間として存在する上で必要な表現力、コミュニケーション力を修得するため、伝わる文章、読んでもらえる文章を書く演習を行う。		
	カレッジコミュニティⅠ	この授業では、よりよい社会を作り、その一員として生きていくために、課外活動を通して地域の特色や課題について知り、自分たちでできることを立案して実践する力を修得する。授業を通して、地域の方々と協力しながら、自分たちでできることを自ら考え、行動する。その過程で、学修することの意味を知り、また今の自分に足りないもの、すなわち今後の大学生活の中で修得しておくべきものは何かを気づくことを目指す。	共同	
	カレッジコミュニティⅡ	この授業では、よりよい社会を作り、その一員として生きていくために、課外活動を通して地域の特色や課題について考え、自分たちでできることを立案し、実現に導いて行くようリーダーシップを養う。授業を通して、地域の方々と協力しながら、自分たちでできることを自ら考え、行動する。その過程で、誰かの後についていくのではなく、グループにおいて指導的な立場で行動する力を修得することを旨とする。	共同	
	読書演習	新しい読書の方法として、ビブリオバトル（各々好きな本を持ち寄り、スピーチをしてもらうという書評ゲーム）、アクティブブックダイアログ（1冊の本を数人で分けて、理解を深めるという試み）、ブックトーク（グループごとにテーマを決め、そのテーマのもとに関連する本を集めて、紹介プレゼンテーションを行う）の3つのプログラムを行う。授業を通して、幅広い知識や教養を修得する上で読書が不可欠であることを学修し、今後の人生に必要な継続的な読書習慣を修得する。		
	A群（先人の知を受けつぐ）	思想の世界	この授業のキーワードは、「西洋思想」と「人間と世界」である。それらについてアクティブに学修するため、まず古代から現代に至るまでの西洋思想を、歴史的な視野から考察し、世界や人間存在とは何か、なぜ思想が必要なのか、その問いに答えるために具体的な政治思想や社会思想を取り上げ、実状と課題とを考える訓練をする。そして、自らが社会で生きていく際に直面する判断に向き合う思考力を修得し、今後の人類や社会のあるべき姿をアクティブに模索してゆく。	
		日本の歴史	日本の歴史を時代順に取り上げ、各時代における主要な人物や事件を紹介しながら、各時代の特徴や文化、後世への影響と歴史的意義などを講義する。歴史とは過去の積み重ねであり、その中には規範とすべき事柄もあれば、繰り返してはならない過ちもある。現代に生きる我々が、そこから何を学び取りどのように未来へ生かすべきかを考える。授業を通して、日本の歴史を概観し、歴史的な事象の経緯や意義、要人の事績を知ることで、そこから学び取れる知見を将来へ反映できるような知識と教養を修得する。	
		民族と文化	民俗学（日本民俗学）は、日本の日常生活の特色を学修する学問である。日本の歴史を考える方法の一つとして、民俗学（生活文化史）がある。日本の歴史は、文字に記されている文献以外に、文字に記されていない民俗資料からも窺える。例えば、民俗資料として、各家や地域に伝わる習慣や言い伝え（伝承）が、それぞれの地域の特色を知る手段になる。そこで、日本における私達の日常生活の特色を考えるために、具体的な項目を取り上げ、授業を進める。	
		ことばの世界	この授業のキーワードは、「言葉と物」である。言語の中にある規則性と普遍性を、客観的な方法を用いて発見していく。その際、多様な言語を資料として活用し、社会的事実としての言葉と物の関係を学修する。さらに、複数の言語を比較することによって、その多様性と一般法則を同時に体験してゆく。授業を通して、人間が言語によって世界を把握するという根源的な事実を知り、それが人類に共通する社会的事実であることを理解する。加えて、言語という、音声や記号を用いて何かを伝達する行為について、理論的に把握することを旨とする。	
		日本語を知る	日本語のより教養ある使い手となるために、日本文化の一部としての日本語について、先人の日本語学研究をもとに、基礎的な知識を修得し、ことばの捉え方を学修する。特に、日本語の音韻・音声、文字表記、語彙、文法、敬語、方言などのテーマごとに基礎的な考え方や用語について学修する。授業を通して、日本文化の一部としての日本語に対し、論理的で客観的に分析することができる力を修得する。	

授業科目の概要			
(総合心理学部総合心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
A群 （先人の知を受けつぐ）	教養としての日本文化	この授業では「異界」をキーワードに、まずは古典芸能や美術・工芸や、サブカルチャーを含む文学、映像作品などを取り上げる。「異界」の描かれ方、扱われ方を見ることで、日本文化の特質について考えて行く。また、能や浄瑠璃・歌舞伎、和歌や説話などを取り上げる過程で、それらについて海外の人にも紹介できるレベルの知識を修得するよう、それぞれの歴史と代表的な作品についても解説を加える。	
	西洋の文化を考える	20世紀フランス文学を代表する小説、マルセル・ブルースト作『失われた時を求めて』を講読し、この作品を通じ、20世紀初めのフランスの社会や文化について学修する。単に作品を読むだけでなく、作品が読者に与える効果とその源泉について考察し、それを自分の言葉で表現する練習を行う。また、作品を読み進めながらその文化・社会的背景、作品を構成する美学、文体的特性などについて考察する。授業を通して、現代の社会で生きていくために必要な教養を修得することを目的に、外国の文学作品読解を通じて地理、時間的に自分とは異なる範疇に属する人々を理解する力を養う。	
	子どもの文化	日本で非常に広く読まれているルパンシリーズ（南洋一郎訳）から4作を取り上げる。各自抱えているルパンに対するイメージや、その由来を探り、原作が20世紀初頭のフランスで書かれたことを念頭に、その文化的・時代的背景について学修する。授業を通して、日本で育つ子どもの世界を形成している外国文学作品を読み、そこにあらわれている様々な文化的背景やフィルターを読み解くことで、自らが属する文化のありかたを客観視することのできる力を養う。	
	芸術を鑑賞する	宗教美術から始まって、神話や物語の一場面を描く絵、作者や注文主、関係者のさまざまな意図や思惑が込められたモニュメンタルな作品、作者個人の物語が潜んでいる作品、本来タブーであるはずの裸体画、何らかの風景を主体とする絵画などの鑑賞方法を学修する。さらに、抽象的、装飾的な造形が前面に出た作品へのアプローチの仕方や時代、地域ごとに異なる様式についても学修する。芸術鑑賞への第一歩は、まずその作品をよく観ることであるが、それとともに、美術作品や工芸作品にはさまざまな意図や意味が込められていることを知ることも芸術鑑賞にとって必須の基礎である。そのために、一つの作品に存在するさまざまな要素を理解し、芸術作品へのアプローチの方法を学修する。	
	伝統文化演習	日本の伝統文化である華道（いけばな）に焦点を当て、時代とともに変化していく日本人の暮らしに対応して、今日に至る華道の精神性と美意識を学修する。そして、いけばなの実技を体験し学修することにより、花を生けることで、自分の思いを表現する楽しさを体感し、さらに実技を重ねて技術を修得する。	
B群 （世界と今を読み解く）	日本の憲法	日本国憲法の全体像（国民主権・三権分立・人権保障）を学修し、国民として生きていくために必要な憲法の基本的知識を修得する。憲法は「人間らしい生活」を保障するものであり、私たちは生活のさまざまな場面で憲法と深く関わっている。授業を通して、そのことを一人ひとりが考え、自分と憲法との距離をはかる参考とすることができる力を養う。	
	くらしと法律	ストーカーやドメスティックバイオレンス、児童虐待防止法、セクハラなどの被害数が増えている。この授業では、そのような問題について法律ではどのように対応できるのかを学修する。自己を確立し社会に貢献していくために、日常生活に起こりうる問題や社会のしくみについて、法の観点から理解する力を養う。	
	現代社会を考える	この授業のキーワードは、社会と自分である。家族、教育、メディア、労働、民主主義、環境といった問題を取り上げ、問題解決学習を通じて、それらが自分たち自身と深く関わっていることを中心に講義する。具体的には、前半は社会学の視点と方法についての講義を行う。後半は、引き続き、社会学の視点と方法についての講義を行い、さらに具体的なトピックをとりあげてそれらを社会的に講義する。	
	東アジアを知る	中国の伝統思想や文化、歴史、庶民の暮らしなどについて基礎を学修し、日本や韓国との関係を考える。映像を用い、視覚的にイメージする授業手法を取る。日本を含む東アジアの社会を理解するために、中国五千年の思想と文化の学修を通じて、中国ならびに日本の文化や隣国韓国の文化を理解する力を養う。	
	人権を考える	この授業のキーワードは、「人権の基本概念」と「人権思想の成立経緯」である。それらについて学修するため、まず近代社会における人権概念を、歴史的な視野から考察し、人権とは何か、なぜ人権が必要なのか、その問いに答えるために具体的な人権思想を取り上げる。授業を通して、実状と課題とを考える力を養い、自らが社会で生きていく上で直面する人権問題に向き合う力を修得し、今後の人権保障のあるべき姿を模索していく。また、近代憲法における人権とは何かを学修し、国家による個人の権利保護を考える。	
	平和を考える	紛争や飢餓、貧困、気候変動、ジェンダー格差、富の不均衡など、現代国際社会は解決困難な多くの問題を抱えており、それらは人々の「平和」を脅かしている。2015年、国連は「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を採択し、「人権尊重」という理念を「平和」への足掛かりに見据え、その手段として有効なものとして、この授業が中心に据える「国際人権法」と呼ばれるツールを挙げている。そこで、この授業では、国際社会の成り立ちを理解し、「国際人権法」と呼ばれる国際社会のルールの観点から、先人たちがどのようにして「平和」な状態を構築/維持しようと努力してきたのかについて学修する。	
	メディアを考える	この授業のキーワードは、マス・コミュニケーションの歴史と現状である。コミュニケーションの諸類型の中で、マス・コミュニケーションがどのような特性を持つのかを考察する。特に、印刷術の発明から、新聞の発達、映像メディア、電波メディアの誕生と発展について歴史的、社会的に講義する。また、日本だけではなく、ヨーロッパやアメリカの事例を参考にしながら、それを自分たちを取り巻く社会問題として捉える重要性を指摘し、問題解決学習の一助となるよう講義する。	

授業科目の概要			
(総合心理学部総合心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
B群 （世界と今を読み解く）	情報リテラシー	2022年度から、高校の情報のカリキュラムが変更され、全ての高校生がプログラミング、データベース、ネットワークなどの情報科学の基本的な事柄について学ぶ。これは、情報科学の基本的な内容が、これからのIT社会を生きていくうえで、一般教養として必要になってきていることを意味している。授業を通して、情報科学の基本的な内容について学修し、コンピュータをうまく活用できる力を修得する。	
	心理学	教養としての基本的な心理学の内容を中心に概説する。心理学はきわめて多様な学問であり、そのすべてを網羅することはできないが、基礎領域と応用領域のバランスを取りながら授業を進める。まず、心理学の成り立ちを理解するために、心理学の歴史や心理学的な考え方を学修する。さらに、人の心の基本的な仕組みおよび成り立ちについて理解するために、心理学の諸分野を概観し、人の行動やその背後にある考えについて学修する。	
	くらしと化学	生活に不可欠な化学物質についての基礎的な内容を扱う。特に、なぜ化学を学修する必要があるかといった意義から、専門領域へと応用できるようになる内容まで講義する。身の回りの「物質」に関連する化学の知識を得ることで、日常生活に利用されている化学の恩恵について理解し、より便利な生活を営むためにはどのように応用すべきかを考える力を修得する。	
	生物を知る	生物（学）とは何か？動物、植物などの生物に共通する細胞の構造や、ヒトの特徴などについて取り上げる。また、最近話題となっていることも含めて概説し、受講生がより興味を持ち、身近なものとなるようにする。授業を通して、動物、植物などの生物に共通する細胞、ヒトを構成する栄養素や体内で起こる様々な現象について正確な知識を修得し、生物に対する理解を深めるとともに、論理的に考え、理解する力を養う。	
	データリテラシー	データの扱いにおいて、Excelにデータを入力し、整理し、処理する手順を学修する。データ処理においては、Excelの様々な機能を活用したり、他のアプリケーションとの連携をしたりして、情報を包括的に捉える練習をする。特に、統計的なデータに対し、表のまとめ方やグラフへの出力などを中心に、データを処理するための方法を中心に練習し、様々なデータについて、自分で考えられる力を修得する。	
	社会と言語	この授業のキーワードは「社会的事実としての言語」である。我々は、自由に言葉を使っているように見えて、実は言語用法は強く社会関係の影響を受けているということ、体験的な事実を交えて講義する。その際、性別、職業、役割、地域といった具体的な事柄に関連させながら、普段は気づかない人間関係を言語的な側面から講義する。	
C群 （未来をひらく）	科学と倫理	科学は、文明や文化を進展させ、人類の生活の向上に大きな貢献を成した。科学の発展に伴い倫理観は、必ずしも簡単に白黒がつけられるものではなく、むしろ成果の一面としての複雑な性格を持っている。先の見通せない時代には、いろいろな問いかけと知的な基盤から、それぞれの倫理観を生み出そうとしている。恐らく終わりなき模索であり、簡単には正解を得られないかもしれない。状況に応じた倫理への真剣な問いかけによって見えてくるものに違いない。この授業では、テーマごとに事例や資料を提示して講義する。また、必要であれば、2つのグループにわけディベートを行う。	
	ソーシャルメディア論	インターネット、スマートフォンやタブレットの普及でソーシャルメディアが発展してきた経緯を学修し、LINE、Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeなどの代表的なソーシャルメディアのサービス例からそれぞれの特徴を学修する。そして、ソーシャルメディアの情報発信におけるメディアリテラシーの重要性について学修する。ソーシャルメディアなどの情報メディア活用ができるようになるために、授業を通して、さまざまなソーシャルメディアの特徴を理解し、情報収集・共有・発信するための知識を修得する。	
	先端技術と文化	（概要） 現代社会を支える先端技術とそれらが現代文化に与える影響に関する基礎教養を学修する。また、それらを客観的に捉えて、将来の自分の生活とどのような関わりが生まれるのか、自分はそれらの技術をどのように活用していくのかについて、独自の考えを育て、それを表明できる教養力を修得する。授業はオムニバス形式でそれぞれの分野に明るい教員が担当する。  （オムニバス方式／全14回） （20 永草 次郎／4回）アートと先端技術 （17 喜家村 奨／1回）プログラミング学修の重要性とSociety5.0 （29 小幡 信／4回）先端技術を知る意義、広告表現と先端技術、サステナビリティと先端技術、技術の光と影 （31 小松 久美子／3回）AIとロボット、エッジ・コンピューティングと5G、さまざまな分野で応用されるAI技術 （37 佐藤 安／2回）映像表現と制作系先端技術、映像表現と展示系先端技術	オムニバス方式
	健康を管理する	生活習慣と健康管理の関わりや、ライフステージからみた問題点の基礎的・実践的知識を総合的に学修し、どのように活用できるかを考えていく。授業を通して、自身の健康管理のみではなく、社会全体の健康管理に役立つ広範な知識を学修し、それらの知識・知見を他の応用科目や関連科目を学修する時に活用できる力と知識を修得する。	
	書いて学ぶ文芸	自己表現、あるいは、他者とのコミュニケーションにおいて、「言葉」や「文章」は避けて通ることができない。日本語の特徴や多様性を理解しつつ、相手に伝える・伝わる文章とはどういふものかを主題に考察していく。様々なテキストに触れることで読解力を高め、まずは「考える・想像する」ことに慣れていく。その上で、自身の言葉にフィードバックさせ、「書く」ことを繰り返し、文章表現を修得していく。	
	描いて学ぶアート	デッサンが作品制作の基本であることは言うまでもない。アートによる表現力を修得するため、鉛筆による基礎的なデッサン（静物デッサン、動物デッサン、風景デッサンなど）を繰り返し行い、対象を把握し、的確に表現する技術を修得する。授業では、簡単な形から複雑なモチーフへとレベルを上げながらデッサンを行うことによって、鉛筆による基礎的な表現を学修する。また、動物デッサンにより動的な対象を描写する表現力を修得し、風景デッサンにより空間を把握する目と技術を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（総合心理学部総合心理学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
C 群 （未来をひらく）	健康とスポーツ A	生涯にわたる心身両面の健康維持・増進を図るために、身体活動を通して正しい知識や至適な実践方法を学修する。体力・健康チェックを行い体力の現状を確認する。その上で必要な体力の要素を実践して修得する。また、各種スポーツ（卓球、バレーボール）の基礎技術の修得からゲームまでを実践する。理論は健康とスポーツに関する事項について学修する。また、スポーツルールに基づいたチームプレイや個人プレイの実践を通して自らの役割を認識し、仲間との協調性ならびに社会性やリーダーシップを修得する。スポーツやゲームの本来の楽しさや本質を認識するために、自己の身体的あるいは精神的な特性を生かしながら、問題や課題の解決に取り組み、スキルアップを目指す。	
	健康とスポーツ B	生涯にわたる心身両面の健康維持・増進を図るために、身体活動を通して正しい知識や至適な実践方法を学修する。体力・健康チェックを行い体力の現状を確認する。その上で必要な体力の要素を実践して修得する。また、各種スポーツ（バドミントン、バスケットボール）の基礎技術の修得からゲームまでを実践する。理論は健康とスポーツに関する事項について学修する。また、スポーツルールに基づいたチームプレイや個人プレイの実践を通して自らの役割を認識し、仲間との協調性ならびに社会性やリーダーシップを修得する。スポーツやゲームの本来の楽しさや本質を認識するために、自己の身体的あるいは精神的な特性を生かしながら、問題や課題の解決に取り組み、スキルアップを目指す。	
	生涯スポーツ実習 A	生涯スポーツとして気軽にできる種目（キンボール、ソフトバレーボール、ラケットテニス、ベタソウ等）について取り組み、技術や知識を修得し、自分たちで実践できるようにする。授業を通して、生涯にわたる心身両面の健康維持・増進を図るために、身体活動を通して正しい知識と実践できる力を修得する。また、勝つための競技スポーツと異なり、目的に応じていつでも、どこでもスポーツに親しむ事ができる生涯スポーツ社会を実現する。	
	生涯スポーツ実習 B	生涯スポーツとして気軽にできる種目（フライングディスク、インディアカ等）について取り組み、技術や知識を修得し、自分たちで実践できるようにする。授業を通して、生涯にわたる心身両面の健康維持・増進を図るために、身体活動を通して正しい知識と実践できる力を修得する。また、勝つための競技スポーツと異なり、目的に応じていつでも、どこでもスポーツに親しむ事ができる生涯スポーツ社会を実現する。	
	教育を考える	授業では最初に教育の基本的概念について学修する。次に、西洋における代表的な教育思想家を取り上げながら、教育の理念・思想について当時の歴史的背景・社会背景との関連から学修する。続いて、日本における教育の歴史を取り扱う。近世から現在に至るまで、いかなる理念・思想のもとに学校教育が行われ、それらが時代とともにどう変化してきたのか学修するとともに、現在の教育にどのような課題があるのかについて考える。教育がかかえる問題について、歴史的視点から考察する力を修得する。	
基盤 教育科目	キャリアデザイン I	「クッキー屋」のビジネスをモデルケースとして、会社の成り立ち・仕事のしくみについて学修する。また、SDGsの概要や、働く組織、働き方の違い、といった社会・会社のことや、自律と自立、アイデンティティといった自分理解について学修する。この授業では、会社とは何か、働くとは何かといった、就業（就職）に関する基本的な知識を修得し、将来に備える基礎力を養う。	
	キャリアデザイン II	「キャリアデザイン I」の発展編として、「シャケ弁当」を題材に、商品の流れについて学修する。社会を構成する会社相互のつながり、業界、業種、職種の違いや、産業社会、求められる人材、資格、さらには生きていく上で必要となる経済の設計、人生の目的といったことを学修する。社会を構成する会社の連携について学修し、2回生以降の、社会を知る活動が必要となってくる、基礎的な力（知識、行動力等）を養う。	
	ホスピタリティ入門	ホスピタリティとは「心のこもったおもてなし」という意味で、「相手に敬意を持ち、心を働かせて、相手のために精一杯手を尽くす」という意味で使われている。「おもてなし」はする側もされる側も心が豊かになる。より「心」が重要視される時代、おもてなしの心が社会では求められている。この授業では、ホスピタリティの精神と円滑で良好な人間関係の構築につながる対人力を養うために必要な知識や対策を修得する。そして、自らがしっかり行動に起こすことのできる力を養う。	
	キャリア形成 数理リテラシー	数学があまり得意でなかった学生にも数学的概念（論理的思考）が理解できるよう、商品の値段決定など身近な事象を題材に、講義を進める。また、割合、推論や確率など様々なテーマを学修することで社会事象を定量的、客観的に理解する力を養う。授業を通して、様々な情報社会の中で、有意義な社会生活を送ることができるようになるために必要な知識や技能を修得することで、論理的思考を活用できるよう社会人基礎力を養う。	
	キャリアデザイン III	人工知能（AI）の活用や社会課題への対応、多様性の拡大など、社会・企業の新たな動き・変化について学修する。また、モチベーション、自分にとってのホワイト企業等について考察する。「キャリアデザイン I」「キャリアデザイン II」の発展編として、今後の社会・企業がどのように変化していくのか、その方向性について学修し、将来有望な働き方について自ら考える力を修得する。また、3回生以降の就職活動で必要となる基本的な力（知識、行動力等）を養う。	
	キャリアデザイン IV	新しい働き方として、社会起業家やアントレプレナーシップ等について学修する。また、自分の適性、就職活動のプロセス等について学修するとともに、具体的な社会人のインタビュー教材を視聴し、業種や職種の理解を深める。「キャリアデザイン I」「キャリアデザイン II」「キャリアデザイン III」の総仕上げとして、「これからの社会で活躍する個人」に焦点を当て、大きく変わりつつある社会の波を、個人として乗りきっていくための知識や力について学修し、スキルアップを図る。	
	インターンシップ A	自らの就業力を高めるため、実際に企業における仕事の体験を通じて、仕事とは何かという基本を実体験し、視野を広げるとともに、業種・業界などを学修することで、職業選択に必要な基本の力を養う。授業は、事前研修、インターンシップ実習（5日間）、参加報告の3部によって構成する。事前研修では、自己理解、目標設定、社会人マナーといった内容を扱う。インターンシップ実習では、事前に自ら設定・選択した内容に基づき、各実習先での取り組み・就業体験に臨む。参加報告では、事前研修～インターンシップ実習の内容を振り返り、以降の大学生活に活かしていく準備を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合心理学部総合心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア形成	インターンシップB	社会に貢献する仕事のあり方をより具体的に理解し、自身の働くイメージを明確化させるため、2週間以上の長期インターンシップを経験し、より深い業務の流れ、社会人の働き方などを学修する。事前研修、インターンシップ実習(2週間)、事後研修の3部によって構成する。事前研修では、自己理解、目標設定、社会人マナーといった内容を扱う。インターンシップ実習では、事前に自ら設定・選択した内容に基づき、各実習先での取り組み・就業体験に臨む。事後研修では、事前研修～インターンシップ実習の内容を振り返り、体験を言語化し、経験として体得する。	
	プロジェクト型インターンシップ	「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」学んだ基礎知識を活用した実践形式の学修と位置付ける。実際の企業から課題を提示していただき、チームでその課題に取り組む。課題に対するアプローチ方法を学ぶとともに、必要に応じて、現地調査を実施、課題に対する企画案を立案する。中間発表を行い、企業様からのアドバイスをもとに企画案を練り直し、最終企画書を作成、発表までを行う。実際の社会では、プロジェクト形式で実施される仕事がたくさんあり、個人の力を出し合いチームとして達成していくことが必要となる。この授業を通して、実社会の仕事のプレ体験をすることともに、これらに必要な基礎力(主体性、協調性、課題解決能力、プレゼンテーション力等)を修得する。	共同
基盤教育科目  外国語	総合英語Ⅰ	主にライティングとリーディングの技能向上を中心課題とする。また、英語の「リーディング」、「ライティング」、「スピーキング」、「リスニング」の4技能を統合的に向上させて、自分の考えを英語で発信することができる基礎力を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①日常生活のなじみのある活動を講義する文を読んで理解できる。 ②簡単なメッセージを理解できる。 ③簡単な自己紹介を書ける。 ④簡単な語や表現を使いながら、自分に関する短い文書を書くことができる(例:好き嫌い、学校生活など)	
	総合英語Ⅱ	主にライティングとリーディングの技能向上を中心課題とする。また、英語の「リーディング」、「ライティング」、「スピーキング」、「リスニング」の4技能を統合的に向上させて、自分の考えを英語で発信することができる基礎力を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①日常的なトピックに関する文章の要点を理解し、必要な情報を得ることができる。 ②興味のある話題に関する簡単な文章を理解できる。(例:スポーツ、趣味など) ③お気に入りの物や、なじみのあるものを講義する簡単な文章を書くことができる。(例:ペットや好きな本など) ④趣味や興味に関することを書くことができる。	
	総合英語ⅡⅠ	主にライティングとリーディングの技能向上を中心課題とする。また、英語の「リーディング」、「ライティング」、「スピーキング」、「リスニング」の4技能を統合的に向上させて、自分の考えを英語で発信することができる基礎力を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①娯楽に関する情報を読むことができる。(例:観光ガイドなど) ②よく知っている学問的話題に関する記事を読んで理解できる。 ③将来の夢や望みについて書くことができる。 ④聞いたものや読んだものに関して、基本的な語彙や言い回しを用いながら簡単にその感想や意見を書くことができる。	
	総合英語ⅡⅡ	主にライティングとリーディングの技能向上を中心課題とする。また、英語の「リーディング」、「ライティング」、「スピーキング」、「リスニング」の4技能を統合的に向上させて、自分の考えを英語で発信することができる基礎力を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①短い簡単な物語を読んで理解できる。 ②辞書を使いながら、授業に関する専門的な教材を読むことができる。 ③辞書を使いながら、自身の経験したことに関して短い文章を書くことができる。 ④修得した語彙や文法を用いて、現在おかれた状況(学校、職場)で起こったことに関してかなり長い説明を書くことができる。	
	実践コミュニケーション英語Ⅰ	自分の意思を簡単な英語で相手に伝えることができ、また相手の英語を聞き取れるようになるための基礎的な英語技能を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①相手がゆっくり、はっきりと話していれば、よく知っている単語や簡単な表現は認識できる。 ②相手がゆっくりと話したり、繰り返し説明すれば、日常生活に関するよく知っている話題の簡単な話の内容を理解できる。 ③好き嫌いを言ったり、簡単な語でその理由を講義することができる。(例:スポーツ、食べ物など) ④日常的な会話においてよく使われる日常的表現と基本的な言い回しを用いながら、簡単に答えることができる。 ⑤簡単な自己紹介ができる。	
	実践コミュニケーション英語Ⅱ	自分の意思を簡単な英語で相手に伝えることができ、また相手の英語を聞き取れるようになるための基礎的な英語技能を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①簡単なメッセージや、短い案内の要点を聞いて理解できる。 ②相手がゆっくりと丁寧に、趣味や興味のあることについて話していれば理解できる。 ③相手がゆっくり、はっきりと話していれば、よく知っている話題に関するスピーチの要点は理解できる。 ④興味のある話題について、自分自身の意見を表明できる。(スポーツ、趣味など) ⑤簡単な語彙と基本的な言い回しを用いながら、申し出をしたり、相手からの申し出を受けたり、断ったりすることができる。	
	実践コミュニケーション英語ⅡⅠ	自分の意思を英語で相手に伝えることができ、また相手の英語を聞き取れるようになるための基礎的な英語技能を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①公共のアナウンス(例:空港やデパートなど)を聞いて理解できる。 ②内容が簡単であれば、電話で相手が話すことを理解できる。 ③興味のある話題に関する会話や話を理解できる。(例:スポーツ、趣味など) ④簡単な英語を使って、意見や感想を言い合ったり、同意/反対を表明したりすることができる。 ⑤日常生活に直接関連しているトピックについて、写真などの視覚資料を見せ、簡単な語彙を用いながら短いスピーチができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合心理学部総合心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	外国語	実践コミュニケーション英語Ⅱ	自分の意思を英語で相手に伝えることができ、また相手の英語を聞き取れるようになるための基礎的な英語技能を養う。 到達目標は、以下のとおりである。 ①ラジオやテレビで放送されているニュースの要点を理解できる。 ②長時間のスピーチや講義を理解し、なじみのある話題であれば、複雑な議論についていくことができる。 ③相手がはっきりと話してくれれば、なじみのある話題(例:スポーツ、食べ物など)に関して意見の交換ができる。 ④将来の夢や望みを語るができる。 ⑤幅広い分野の簡単な語を使いながら、具体的なトピックに関して、会話を継続することができる。	
		資格英語Ⅰ	「まだ本格的な勉強は始めているが、大学生の間にTOEIC®で高得点を取り、留学や就職に生かしたい」と思っている学生を対象とする。TOEIC®の各パート(リスニング、文法、長文読解)の問題を解きながら、問題形式に慣れ、重要事項と解法のコツを理解する。語彙の修得、文法の理解、正確な読解、思考力、リスニング力の強化等、総合的な英語学修を行う。TOEIC®攻略方法を実践研究し、基礎的な英語表現を「瞬時に」かつ、「正確・的確に」運用できるような処理能力を修得することをめざす。TOEIC®のスコアを半年間で50点アップさせることをめざす。最終的には350点以上をめざす。	
		資格英語Ⅱ	「まだ本格的な勉強は始めているが、大学生の間にTOEIC®で高得点を取り、留学や就職に生かしたい」と思っている学生を対象とする。TOEIC®の各パート(リスニング、文法、長文読解)の問題を解きながら、問題形式に慣れ、重要事項と解法のコツを理解する。語彙の修得、文法の理解、正確な読解、思考力、リスニング力の強化等、総合的な英語学修を行う。資格英語Ⅰで身につけた英語の技能を活用して、基礎的な英語表現を「瞬時に」かつ、「正確・的確に」運用できるような処理能力を修得することをめざす。TOEIC®のスコアを半年間で50点アップさせることをめざす。最終的には400点以上をめざす。	
		フランスのことばと文化Ⅰ	フランス語の発音やスペリングを覚え、基本的な文法を理解して、自己紹介や旅行で使う会話に必要な語彙・表現を覚える。同時にフランスの文化についても知る。	
		フランスのことばと文化Ⅱ	「フランスのことばと文化Ⅰ」で覚えたフランス語の基礎知識を用いて、希望や予定を述べたり、自分の趣味をより詳しく説明したりできるようにする。同時にフランス語が話されている地域における生活、文化習慣について理解を深める。	
		中国のことばと文化Ⅰ	中国語の発音やスペリングを覚え、基本的な文法を理解して、自己紹介や旅行で使う会話に必要な語彙・表現を覚える。同時に中国の文化についても知る。	
		中国のことばと文化Ⅱ	「中国のことばと文化Ⅰ」で覚えた中国語の基礎知識を用いて、希望や予定を述べたり、自分の趣味をより詳しく説明したりできるようにする。同時に中国語が話されている地域における生活、文化習慣について理解を深める。	
		韓国のことばと文化Ⅰ	韓国語の発音やスペリングを覚え、基本的な文法を理解して、自己紹介や旅行で使う会話に必要な語彙・表現を覚える。同時に韓国語の文化についても知る。	
	韓国のことばと文化Ⅱ	「韓国語のことばと文化Ⅰ」で覚えた韓国語の基礎知識を用いて、希望や予定を述べたり、自分の趣味をより詳しく説明したりできるようにする。同時に韓国語が話されている地域における生活、文化習慣について理解を深める。		
	情報処理	情報活用基礎A	これからのIT社会を生きていくために、ファイル操作などのPCを利用する上で必要な基本的な知識、情報入手・発信の基本となるインターネットや電子メールの活用技術やエチケット、ワードプロセッサ(Word)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使ったプレゼンテーション手法まで、浅く広く基本的なICT活用方法を修得する。授業を通して、パソコンを道具として活用するための基礎知識と技術、どのようなときに利用したらよいを判断する力を養う。	
		情報活用基礎B	ファイル操作などのPCを利用する上で必要な基本的な知識、表計算ソフト(Excel)、HTMLを使ったWebページの作成まで、浅く広く基本的なICT活用方法を修得する。授業を通して、パソコンを道具として活用するための基礎知識と技術、どのようなときに利用したらよいを判断する力を養う。	
		情報活用A	情報機器を操作し、諸問題にICTを活用できる基本的な技能を修得することを目指し、一般的なビジネス文書を作成するに留まらず、基本的な機能を効率よく利用して、その変更・印刷等の作業を行うことができる実務能力を養う。それらの基本的な機能を十分に理解した上で、用途や目的に応じて環境設定・データの有効活用等の高度な機能を使った作業が出来る力を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合心理学部総合心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報処理	情報活用B	パソコンが自在に使えるかどうかを客観的に示す方法の一つは、資格を取得することである。MOS (Microsoft Office Specialist) は、企業でもっともよく使われているパソコンのソフトOfficeの、利用能力を証明する世界的な資格試験制度である。MOS Excel 2019/365の取得を目指すし、Excelの基本操作から、関数、テーブル、グラフの管理まで幅広く表計算操作技術を学修する。	
	プログラミング言語Ⅰ	この授業では、実際にプログラミングを行うことによって、プログラムの作成からテスト及びデバッグまでの一連の作業に必要な基礎的な知識と技術を学修する。まず、最初は、MITメディアラボが開発した「Scratch」（スクラッチ）というプログラミング言語を使用する（「Scratch」は、ブロック型の簡易言語で、多くの小学校で、このようなプログラミング環境を使ってプログラミングを学んでいる）。後半は、micro:bitというワンボードコンピュータを使ってプログラミングを学修する（micro:bitは英国BBCが、イギリスの11、12歳の子供たちに無償配布したワンボードコンピュータで、全世界の子供たちが、micro:bitを使って、フィジカルプログラミングを学んでいる）。授業を通して、プログラミングに関する基礎的な知識と技術を修得し、コンピュータで様々なものを制御する仕組みを理解する力を養う。	
	プログラミング言語Ⅱ	この授業ではMonacaというスマートフォンアプリ開発環境を使って、いくつかの課題に挑戦し、最終的には、スマホで動くアプリを開発する。プログラミング言語はJavaScriptを使う。プログラミングは問題を解決する力を修得する良い練習にもなり得る。問題を分析し、その解決策を検討し、それを実現する。これはまさにプログラム制作する過程そのものである。これからのIT社会を生きていくために、プログラミングの基本的な知識を修得し、プログラムの設計や作成、デバッグができる力を養う。	
	データサイエンス・AI概論	データサイエンスやIoT (Internet of Things) など高度情報技術の発展、AI (人工知能・Artificial Intelligence) の普及による社会や経済の変革、政府のSociety5.0戦略の推進により、社会は急速に変化している。各人の専攻に関わらず、データサイエンス・AIに関する基本知識を持っていることが、これからの社会を生き抜く上で不可欠になる。この授業では、データサイエンス・AIの基礎を実データを用いて学修する。授業の前半はデータ・AIがどのように活用されているのかを中心に学修する。後半はExcelを使用して様々なデータを扱えるように、多様な課題で演習する。まとめとして、これまで学んできたことをふまえて、データサイエンスとAIを使って、ある問題を解決する方策案を発表する。	
	データサイエンス・AI実習	この授業では、「データサイエンス・AI概論」で身につけた知識や技能を活かして、実社会のビッグデータやAIをビジネスシーンで活用できるようになるための力を養う。そのため、各学科の専門分野に関連する研究テーマまたは産学連携プロジェクトのテーマを実習の題材として、実データを用いた実習をおこなう。	
基盤教育科目	図書館概論	図書館は身近な公共施設として広く利用されているが、人々の知的自由を保障する機関、また文化を次世代に伝達していく社会的装置、といった意味合いも持っている。この授業では、図書館司書資格をめざす基礎として、図書館の意義・理念と現代社会における位置づけ、図書館と知的自由、各種図書館の機能と概要、などを講義する。マスコミ等で取り上げられる最近の具体的な話題も授業内容に取り入れる。図書館司書資格をめざす基礎として、市民に身近な存在である図書館について、その背後にある目的や理念、またその多様な姿を理解する。	
	図書館情報資源概論	図書館情報資源（図書館資料）としての観点からみた様々な情報メディア、コレクション構築の理論と実際を中心として、情報メディアの歴史や出版流通などについても講義する。図書館資料や出版流通に関する時事的な話題（マスメディア報道など）も授業に取り入れる。図書館司書資格をめざす基礎として、図書館の基盤要素の一つである「図書館情報資源」について学修し、情報資源（資料）の多様な姿とコレクション構築に関する理論・手法を理解する。	
	博物館概論	博物館学の目的、方法、体系、歴史について講義し、具体的な博物館の事例を検討する。博物館に関する専門的で個別な知識・技能の修得に向けて、項目ごとに導入的に学修する。今日の博物館を支えていく制度および学芸員やスタッフの重要な役割について理解し、博物館の今日的な諸課題について討議力を養う。授業を通して、今日の身近な博物館における文化活動を理解し、参画するために必要な基礎知識を修得する。	
	博物館経営論	博物館学芸員の活動の基盤となる博物館経営について、美術館をはじめとした博物館の具体的な事例をもとに講義する。授業を通して、次のとおり、多様な博物館経営の諸相を把握していく。理念をもった博物館の成立にかかわる経営基盤と組織／資料、職員、利用者、施設、企画に関わる経営的な管理運営／博物館の機能である収集・保存・調査・研究／展示・教育をささえる適切なマネジメント／マーケティングにまで及ぶ現代的な経営／ネットワーク社会における他の機関や地域との連携のあり方 等	
	生涯学習概論Ⅰ	生涯学習社会の到来、展開期である実状をふまえ、生涯学習の理念や成立の歴史的経緯を理解し、現状について、学習者のニーズや行政と多様なステークホルダーとの協働という観点から、社会教育主事をはじめとする生涯学習をコーディネートする存在が果たす役割について考える。生涯学習社会とは、各学習者が主体的かつ能動的に学び続ける社会であり、そのための学びの価値が共有された社会といえる。授業を通して、そういった社会の意義や想定される課題など、自らの考えを述べることのできる力を養う。	
	生涯学習概論Ⅱ	生涯学習社会の到来、展開期である実状をふまえ、生涯学習の理念や成立の歴史的経緯を理解し、現状について、学習者のニーズや行政と多様なステークホルダーとの協働という観点から、社会教育主事をはじめとする生涯学習をコーディネートする存在が果たす役割についてさらに発展的に考える。諸事例を関連付け、それらに共通するインプリケーションを拾い上げ、理論体系化する。生涯学習社会とは、各学習者が主体的かつ能動的に学び続ける社会であり、そのための学びの価値が共有された社会といえる。授業を通して、そういった社会の意義や想定される課題などについての自らの考えを基に批判的に検討できる力を養う。	
	レクリエーション概論	レクリエーション概論、楽しさと心の元気づくりの理論、レクリエーション支援の理論、レクリエーション支援の方法について学修する。講義を通して学修したことを自分に当てはめて考えたり、グループでディスカッションをしたり、実践することにより、支援についての理解を深める。授業を通して、教育分野や福祉分野などにおけるレクリエーションが、生きる喜びや心身の健康につながることを理解し、レクリエーション支援者としての基礎知識と支援の理論と方法を修得する。	

(総合心理学部総合心理学科)		授業科目の概要	
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	資格基礎		
	レクリエーション実技	レクリエーション支援の現場で実施されている心を元気にするための多様な種目を実践し、修得する。レクリエーション活動の基本となるゲームを中心に、社会で必要とされる良好なコミュニケーションの手法を実践的に学修する。さらに、対象者の目的に合致した支援プログラムの作成と指導をする。授業を通して、レクリエーション活動を自ら実践し、支援に活かす多様な実技や指導法を修得する。	
	レクリエーション現場実習	下記の3つの領域に関わり、現場体験を通してレクリエーション・インストラクターの役割やイベント運営の役割を経験する。 1. 日本(大阪府)レクリエーション協会が開催する「事業参加」に2回以上参加する。これは資格取得のために必須である。 2. 指導、運営側のスタッフとして「学外実習」に参加する。 3. 「学内開講授業」通年7回に出席する。	
学科専門科目	基礎科目		
	心理学基礎実験Ⅰ	実験課題から体験的に学修する実習形式の科目である。ヒトの心理・行動を理解するために、心理学の科学的な研究方法における実験法を修得する(「係留効果」「触2点閾」「重量弁別」「系列学修」)。授業を通して、心理学実験の手法として主体的に教示を作成し、実験の作法やPCを用いたデータ分析の実施の基礎を学修し、基礎的な実験レポートの書き方を修得する。	共同
	心理学基礎実験Ⅱ	実験課題から体験的に学修する実習形式の科目である。ヒトの心理・行動を理解するために、心理学の科学的な研究方法における実験法を修得する(「知覚運動学修」「錯視課題」)。また授業を通して、心理学実験の手法として主体的に教示を作成し、実験の作法やPCを用いたデータ分析の実施の基礎を学修し、基礎的な実験レポートの書き方を修得する。	共同
	心理学概論Ⅰ	人間の心の働きや行動を理解する心理学の諸分野について、基礎となる枠組みの知識を紹介する。特に学修・知覚・認知を中心とした基礎心理学領域に関する心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて紹介する。授業を通して、心理学の展開科目や演習科目を学んでいくために、その前提となる基礎知識を修得し、心理学の知識や手法を、自分にとって身近な社会の現象と関係づける力を養う。	
	心理学概論Ⅱ	人間の心の働きや行動を理解する心理学の諸分野について、基礎となる枠組みの知識を紹介する。特に人格、発達、臨床、産業、犯罪といった基礎心理学から応用心理学領域までを紹介する。授業を通して、心理学の展開科目や演習科目を学んでいくために、その前提となる基礎知識を修得するとともに、心理学の知識や手法を自分にとって身近な社会の現象と関係づける力を養う。	
	心理調査概論	心理調査や心理学についての基礎的な知識や技法に加え、心を測定するための様々な方法論、心理調査の定義や歴史、現代社会での活用事例のほか、各種心理調査の基本的な考え方について、実例をあげながら整理する。また、心理調査を実施する際に大切な倫理的配慮や、心理調査を実施するにあたって基本となる統計の基礎について、「高校数学Ⅰ」の内容をふまえて復習しながら理解を深める。	
	心理学統計法Ⅰ	心理統計の基礎として、心のデータの扱い方やその解釈について、できる限り数式を使用せずに講義する。また統計手法や統計用語に関する課題に取り組むことで、心理統計の基礎について実践的に学修する。それにより、実験や調査等から得られたデータをもとに人の心の規則性を明らかにしていくためのデータ収集の力と分析力の修得を目指す。	
	解剖生理学	人体の構造と機能について、その全体を以下の器官系ごとに講義する。①人体の構成、②細胞と組織、③細胞膜と物質輸送、④皮膚と膜、⑤体温の調節、⑥血液の構成、⑦免疫系の仕組み、⑧循環器系の構成、⑨心臓の仕組み、⑩血圧・心音・心電図、⑪呼吸器系の構成、⑫呼吸器系の機能、⑬骨格とバイオメカニクス、⑭筋系の構成等。	
公衆衛生学	公衆衛生と疫学・統計、医療と社会、社会と健康・疾病との関係、保健・医療・福祉・介護について多角的に学修し、個人及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について考える。授業を通して、世界やわが国における社会、環境、保健の諸問題を理解するために、多角的視点から科学的に心と身体との関係を学修し、保健・健康や福祉について判断する力を養い、専門的に理解する力を修得する。		
基幹科目	心理学・行動科学群		
	心理学実験	ヒトの行動を主体的に理解するために、心理学の科学的な研究方法における実験法を修得する。科学の手法として、仮説の検証、実験計画の手法を実践的に学び、PCを用いたデータ分析の実施と統計に関する基礎的な知識を身に付け、科学論文の基本となる実験レポートを書く力を修得する。基礎実験で(重量弁別・触2点閾・錯視課題)をすでに修得した学生を対象に、少し高度な心理学の実験を少人数グループで実践的に実施する。	共同
	心理統計実習Ⅰ	心理学統計に関する統計の基礎知識、記述統計量の算出、グラフ作成など、より基礎的な学修に重点を置く。標本から得られた記述統計量を分析し解釈する力を修得する。初学者が難しさを感じるポイントを押さえつつ、以下の学修を一つ一つ進めていく。①統計の仕組みに関する知識、②適切な分析を選び取り、正しい手順で実行する能力、③結果を正確に理解し、それを人に伝えるための技術など。	
	心理統計実習Ⅱ	データや仮説に合わせた適切な分析の判断基準や、分析実施、結果の解釈と記述など、研究実施上、より実践的な学修に重点を置き、推測統計を解釈する力を修得する。初学者が難しさを感じるポイントを押さえつつ、以下の学修を一つ一つ進めていく。①統計の仕組みに関する知識、②適切な分析を選び取り、正しい手順で実行する能力、③結果を正確に理解し、それを人に伝えるための技術など。	

（総合心理学部総合心理学科）		授業科目の概要		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専門科目	基幹科目 心理学・行動科学群	心理学統計法Ⅱ	心理学で使用されている統計について、基礎的な内容の復習から始まり、実際に使用されている検定の仕組みや使い方、論文に記載されている結果の見方などを講義する。また、データを扱う上での、心構えや研究計画の立て方などにも触れる。授業の前半は心理統計の基礎的な内容の復習を含め、少しずつ心理統計の知識を深めていく。授業の後半には、実際の研究で使用されている分析方法などを学修し、論文を読むための知識も修得し、アクティブラーニングの形態の回も取り入れる。	
		心理学研究法	実験、調査、事例研究について理論的に理解すると共に、実際に面接、観察、質問紙、心理検査などの手法を用いた研究計画立案、データ収集と分析、レポート作成を行う。また心理学の研究倫理についても学修する。授業を通して、先行研究をふまえて仮説を立て、調査（実験）を行い、データを収集し、それらを分析して、論理的に考察するという心理学研究の手続きについて説明でき、それらを実践する力を修得する。	
		心理的アセスメント	心理臨床の現場において使用されることの多い心理テスト（質問紙法・投映法・描画法・作業検査法・知能検査・発達検査法など）を用い、心理的アセスメント実習を行う。理論的背景や、基本的な施行法および解釈法を学修し、レポート（目的・方法・結果・考察を含む）を作成し、所見のフィードバック方法を学修する。授業を通して、他者に共感的に関心を持ち、他者を尊重しながら、心理学の専門的技法である心理検査法の理論的背景を知り、その技法の基礎的な使用法と分析法およびその所見の記載方法を学修し、心理的にアセスメントできる力を修得する。	
		臨床心理学概論Ⅰ	19世紀の終わりに芽生え、常に臨床実践を通して改編され続ける臨床心理学は、古くは精神分析学、行動療法、人間性心理学、認知療法といった主要な立場とともに発展してきた。その後、1980年以降の認知科学や発達心理学、神経科学の知見を取り入れながら大きく様変わりしている。また、我々人間の生き方そのものも、情報化社会を越え、技術革新の波を通して大きな影響を受けている。こうした現代的な問題を意識しながら、臨床心理学的な知見が我々の心の健康のためにどう貢献できるかについて順を追って講義する。	
		臨床心理学概論Ⅱ	「臨床心理学概論Ⅰ」に引き続き、現代的な問題を意識しながら、臨床心理学的な知見が我々の心の健康のためにどう貢献できるかについて順を追って講義する。現実の事例を想定し、理論や技法をどのように適用すべきかという方向性に向かう。心理学的理解に留まらず、広く人間福祉・健康の増進に寄与できるように、心身両面から事象をとらえられるようになることを目指し、人間や社会についての問題意識や倫理観を育む。広く自分や人のために応用できる臨床心理学の素養を修得し、他の分野にも応用できる糸口を見出す。	
		感情・人格心理学Ⅰ	感情に関する心理学の基礎理論を知り、感情が行動に及ぼす影響を概観する。また「個性の記述」という基本テーマのもとに、人格、性格という言葉の由来、個性記述の歴史、特性論、類型論といった個性記述理論について講義する。次いで、感情と人格の理論に基づき、人間の適応をめぐる幾つかの問題を取りあげて講義する。最後に「ライフサイクル」という観点から、人生全体を通じたパーソナリティの発達を概説する。	
		感情・人格心理学Ⅱ	まず自己意識、自己概念に関する諸理論を取りあげつつ、自分のイメージや自己意識、自己評価が人間関係のなかで成立し、発達し、規定されることを講義する。次にフロイトの精神分析やユングの考え方に基づいて、心の中のダイナミックな側面、自己愛の考え方を講義する。途中、「心の表現性」というテーマのもとに、絵画や造形作品などに表現されるパーソナリティ、病理について理解するとともに、心の表現性を基盤とする投映法心理検査の原理への理解を深める。	
		発達心理学Ⅰ	人間の誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について概観する。認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識、高齢者の心理について講義する。授業を通して、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達を学修する。人間の発達のプロセスを捉えるために、認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、発達障害等非定型発達についての知識及び考え方を修得する。	
		発達心理学Ⅱ	人間の発達のうち人生後半の発達に焦点を当てる。具体的には、青年期の自己の確立対拡散および社会的参加の発達、成人期・老年期の知的発達と心理的発達、後期青年期・成人期・老年期の心理的問題と臨床援助について講義する。授業を通して、人間の発達のうち特に青年期から死に至るまでの心身の発達を学修する。人間の発達のプロセスを捉えるために、青年期・成人期・老年期の発達と臨床的問題および心理的援助についての知識及び考え方を修得する。	
		教育・学校心理学	学校現場で生じうる問題を心理学的視点から考えていくための基礎知識について講義し、次いで、生徒、保護者、教員に対する心理的なケアについて話をすすめる。また子どもの特長に応じた支援ができるように、発達検査を利用した生徒の理解の仕方を学修する。最終的には、個別の生徒に対する心理的ケアに関する方針を立てたり、学級全体が抱える問題への支援方法を考えたりできる力を修得する。	
		学習・言語心理学	ヒト・人間の心やその集合である社会を理解するための一助として、学修・記憶や言語に関わる脳機能や心理の種類や過程、そして、それらのメカニズムについての基礎的な内容について学修する。特にヒトや動物の行動やその変容、さらに言語についての科学的な背景要因やメカニズムを理解するために、ヒトや動物の行動・言語について科学的な視点からの分析力・表現力・図表等への読解力を深めつつ、それらを要約できる表現力の修得を目指す。	
		行動心理学	心理学の各分野のトピックに関して、「行動」に焦点をあてて講義する。他の心理学関係の講義と重複する部分もあるが、主に心理学で得られた知見が我々の日常行動に対して、どのように役立てられるかという点に重点を置く。授業を通して、人間の心や行動、社会現象についての理解を深め、日常生活に役立てるために必要な心理学の考え方、知識、方法を修得する。	
産業心理学概論	産業心理学のトピックに関して、特に行動面に焦点をあてて講義する。主に心理学で得られた知見が我々の消費生活や労働場面に對して、どのように役立てられるかという点に重点を置く。授業を通して、商品購入やサービスを受ける消費者および組織で働く労働者の心と行動の特性について理解するために、消費生活者および労働者に関わる心理学の知識を修得する。			

(総合心理学部総合心理学科)		授業科目の概要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
心理学・行動科学群	基礎科目	学科専門科目	健康・医療心理学 I	健康を個人のみならず、周囲の人や個人を含む周囲の環境を含めた観点から捉えるとともに、自分自身と周囲の人々の健康に役立てるという立場から、身体的健康の心理学的側面と身体的健康への心理学的介入法について学修する。中でも、健康心理学の概要、ストレスとその対処、ライフスタイルと健康増進、生活習慣と疾病予防について概説してゆく。	
			健康・医療心理学 II	健康を個人のみならず、周囲の人や個人を含む周囲の環境を含めた観点から捉えるとともに、自分自身と周囲の人々の健康に役立てるという立場から「健康・医療心理学 I」での学びを基礎として、身体的健康の心理学的側面についての理解をさらに深める。中でも、疾病とヘルスサービス、痛みとその対処、慢性疾患・重症疾患の健康心理学、災害時のメンタルヘルスについて概説してゆく。	
			人体の構造と機能及び疾病	最初に人体の構造と機能について講義した後、各種疾患について講義し、最後に関連医療について講義する。授業を通して、以下のキーワードを概説できる力を修得する。 キーワード：人体の各器官の構造と機能、発達成長・老化/各種疾患とそれらに起因する障害/周産期医療、リハビリテーションなどの関連医療/医療現場における公認心理師の役割	
			地域援助論 I	援助を必要とする状況や社会福祉制度の基本的知識を概説する。各地域コミュニティの中で、地域援助施設の具体的な活動について学修後、各施設のホームページや行政資料に基づき、施設についてまとめ報告する。それらをふまえて、地域の援助施設を比較し、その類似点、相違点について検討する。授業を通して、地域コミュニティの中で、援助が必要となる対象者、時期、どのような援助が必要か、どのような援助ができるかに関して、心理・社会的側面から理解し、社会福祉制度の知識を持ち、自身も貢献するために、その具体的な活用方法を修得する。	
			地域援助論 II	地域援助が必要な具体的な事例を提示しながら、支援が必要な人々の心理的側面をどのように理解して、地域援助システムや社会福祉の活用を行うかを、事例検討を通じて検討・考察する。虐待、就労支援、アルコール中毒、引きこもりなどの事例に関する演習を通して、実際に援助する時の方法論・視点を修得するために、援助することの意味と意義への理解を深める。	
			文化人類学 I	「文化」とは何かという根本的な問いを考えることから始める。また、家族やジェンダー、儀礼といった、私たちを取り巻く身近な「文化」の多様性を学修し、文化人類学の思考を用いて自らが「当たり前」としてきたことを疑い、相対的に考える力を養うことを目指す。授業を通して、文化の生活様式や価値体系の多様性について学修し、視野を広げるとともに、自らの考えかたや行動の傾向とそれに影響を与える文化・社会背景を認識し、相対化して取り組む姿勢を修得する。	
			文化人類学 II	「他者」とは何かという根本的な問いを考えることから始める。グローバル化のもと変容する現代社会のなかで「他者」を知る重要性を確認しながら、宗教や病、生業など文化人類学の重要なトピックについて理解を深める。また、各地の移民や難民をとりまく状況を分析し、現代社会が直面する課題を他人事ではなく自身にも関わる出来事としてとらえ、考える姿勢を修得する。そのことによって人類学的思考を養い、自文化や「他者」への応答のあり方を再考する。	
			心理学英語文献講読 A	心理学英語文献を読むために、必要となる基本的な英語力(語彙力、文法力、構文理解力)を修得する。心理学入門書や心理テストなどを用い、各領域から幅広くトピックスを取り上げる。基礎的な文法事項、構文理解と結びつけ説明する。合わせて心理学的知識を紹介し講義する。人間、文化、社会について心理学的立場から関心を持ち考える力を養う。	
			心理学英語文献講読 B	英語文献(心理学入門書など)から、臨床心理学などに関連するテーマ・トピックスを取り上げる。英語読解の基礎的な文法事項・構文理解と結びつけ説明する。合わせて心理学的知識を紹介し講義する。授業を通して、心理学英語文献を読むために必要となる基本的な英語力(語彙力・文法力・構文理解力)、コミュニケーション力を修得し、日本語で心理学を学修するとは異なる新鮮な感覚を養い、文化・社会について心理学的立場から興味関心を持って考える力を養う。	
			栄養学	食品にはどのような栄養素が含まれているか、からだの中で各栄養素がどのように代謝されるかを学修する。また、栄養に関する幅広い知識を修得するために、栄養素の摂取基準、各ライフステージでの栄養について、運動・ストレスなどの特殊な条件下での栄養についても学修する。普段食べている食事にはどのような栄養素が含まれているか、各栄養素がどのように消化吸収・代謝されるか理解し、個々の生活条件に応じた適切な栄養を判断する力を修得する。	
			生涯スポーツ論	健康の重要性や福祉の充実が叫ばれる昨今、それらを達成するための手段としてスポーツは必要不可欠な存在となっている。授業では、「文化としてのスポーツ」「地域におけるスポーツ振興」「社会の中のスポーツ」「スポーツ組織の運営と事業」について学修する。授業を通して、「する」だけでなく、「みる」「支える」といったように、スポーツを様々な角度からとらえ、心身両面の健康といった観点から現在の日本が抱える諸問題や、今後考えられる社会的な課題に取り組むことができる視点を養う。	
			社会保障論	社会保障制度は、生活に密接に関わっているにも関わらず、現代社会における社会保障の必要性や、社会保障改革が叫ばれるその理由については、十分に説明されているとはいえない。社会保障を見る目を養うことは、どのような人生を過ごすにしても役に立つであろう。そして、社会保障は権力作用と現実の権利実現との狭間で揺れ動くものであるが、いかなる社会保障制度ならば、少しでも生きやすい社会を生み出すことができるのか。現実の政策動向や種々のニュースも紹介しつつ、現実社会における社会保障にまつわる問題について理解し、社会問題を緩和させるための考え方を修得する。	
公的扶助論	現代社会において未だに解決されない問題の一つに、貧困問題がある。資本主義経済において不可避現象ともいえる。この貧困とは何かについて理解を深めることが第一の目標である。また、貧困対策の制度としては、日本では生活保護制度が対応する。この制度はいかなるものか、どのように運用されているのか、直面している課題は何か、貧困の現実と結びつけて理解することが第二の目標である。授業を通して、貧困問題と公的扶助制度について学修し、一般市民として必要な知識、また福祉関係職に必要な専門的知識と視点を修得する。				

授業科目の概要			
(総合心理学部総合心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	こども学・健康発達科学群	社会福祉原論Ⅰ	現代社会における社会福祉の意義や課題を理解し、社会福祉を支える制度や専門職について学修する。社会福祉の基礎として、社会福祉の歴史や制度、専門職といった基本的な内容や、社会福祉の課題について講義する。とりわけ社会福祉の課題については、「今、地域や社会で起きていること」を中心に、実際にマスコミで報道された内容も取り入れるなど、近年の日本における具体的な課題を題材として授業を行う。
		社会福祉原論Ⅱ	「社会福祉原論Ⅰ」とのつながりをもたせながら、欧米の歴史なども学修し、そのまとめとして社会福祉を体系的に説明する。そのうえで、この授業では主にソーシャルワーク（対人援助）に関する内容を中心に講義を展開する。このソーシャルワークに関する講義では、歴史や理念だけでなく、相談援助のプロセスやそこで用いる技術等、将来、対人援助職として仕事をするとき求められる実践的な内容の基礎も取り入れて授業を行う。
		こどもとジェンダー	こどもを取り巻くジェンダー問題について、その歴史的成立過程から現代的なトピックまでを扱い、ジェンダー平等な視点を養う。具体的には、こどもの誕生時から乳幼児期、学童期、思春期、青年期へと成長するなかにおいて、いかなるジェンダー問題が存在するのかに気づき、理解し、考える力を修得する。
		こどもと教育の社会学	「こども」と「教育」と「社会」の関係と諸課題について歴史社会学と教育社会学の文脈から整理、検討、考察する。こどもたちが置かれている現実や課題と社会状況との関連について、時間軸という歴史的な視点と空間軸という横断的な視点から理解する力を修得する。
		こども学	現代社会の抱える問題を「こども」をキーワードに学際的に捉えなおし、こどもを中心とした視点で考察する力を修得する。この授業では、こどもについて、教育、保育、福祉、保健、生活、文化に加えて法律に関する知識を修得するとともに、これらのこども側の視点から社会の抱える問題の解決に繋がる考察力を修得する。
		こどもと遊び	現代社会の抱える問題を「こども」をキーワードに学際的に捉えなおし、こどもを中心とした視点で考察する力を修得する。この授業では、あそびを娯楽ではなく、ポジティブな余暇の過ごし方や自己肯定感、自己効力感を高める社会的活動と捉え、その環境や自然も含んだ遊びについての知識を修得するとともに、地域社会とこどもの関わりについて考察できる力を修得する。
		こどもと表現	現代社会の抱える問題を「こども」をキーワードに学際的に捉えなおし、こどもを中心とした視点で考察する力を修得する。この授業では、具体的に美術、造形、音楽、文学、情報、メディアといった観点からこどもの成長を理解し、その心理的变化や発達に関する知識を修得するとともに、より良い養育環境の提案に資する力を修得する。
		社会教育経営論Ⅰ	学校・家庭・地域の連携・協働をはじめ、一般行政機関、企業、大学、NPOなど多様な主体と連携・協働のために必要な、人と人、組織と組織をつなぐコーディネート力や、人々の納得を引き出すプレゼンテーション力の基礎について学修する。また、地域学校協働活動や学習成果の評価手法、活用の事例について学修するとともに、社会教育施設の経営の現状と課題について見学や事例を通して学修し、今後の地域学校協働活動や社会教育施設の経営のための基本的視点・能力を修得する。
		社会教育経営論Ⅱ	社会教育行政の戦略的展開を踏まえた社会教育計画の作成のため、統計サイトを使った基礎的な現状把握・分析を通して、他都市・全国と自らの地域を比較し、さらに、全国の優れた実例を通して地域課題や学習課題などを把握・分析する力を修得する。また、社会教育が関わる地域コミュニティ再生の優れた事例について学修するとともに、学生自らが、公開セミナー（ゲストスピーカー招請）の企画・実践を通して、経験的に学習課題の把握と広報戦略、地域コミュニティの再生、事業後の評価などの基本的視点・技法を修得する。
		展開科目	臨床心理学・行動科学群
心理学的支援法A	心理療法及びカウンセリングに関して以下の点を中心に学修する。 ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、技法、それらの適応及び限界 ・初回面接と心理療法における見立て、治療契約 ・プライヴァシーへの配慮を含む心理療法の倫理 ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 ・心理的支援を必要とする人の関係者への支援 ・訪問による支援や地域援助の意義 ・心の健康教育		
心理学的支援法B	心理療法を行うために必要な専門的知識を学修し、心理療法の進め方やそのプロセスで生じてくる問題について考えてゆく。心理療法の技法についても体験的に学修する。学生は心理療法に必要なコミュニケーション力を養うために、カウンセリングのロールプレイ、グループディスカッションなどを行う。授業を通して、心理的支援における専門的な技術と倫理観を修得し、心理療法の見立て、カウンセラーとしての態度、知識、技法、倫理などを修得する。		
思春期青年期心理学	思春期青年期の課題や病理を一つ一つ取り上げながら、私たちの中に生きている少年少女性にあらためて思いを馳せて、共感的に理解していく。人間の心理・行動・社会の諸現象を理解・分析するために、学生が他者に共感的に関心を持ち、他者を尊重しながら、心理学の専門的知識を修得する。特に思春期から青年期の心身両面の発達を知り、心理的な課題や病理を知ると共に、その知識によって社会のさまざまな情勢を分析するとともに、その知識を正しく他者に伝えることができることを目標とする。		

(総合心理学部総合心理学科)		授業科目の概要		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専門科目 展開科目	臨床心理学・行動科学群	家族心理学Ⅰ	家族を理解する視点として「家族システム論」を学修した上で、家族の発達段階で生じる課題を取り上げ、個人や家族の問題として扱われがちな家族の課題について社会・国にまで視野を広げて考える。また家族・社会を構成する一員として私たち一人ひとりが何を考え、どう行動すべきかを検討していく。授業を通して、家族心理学の理論や概念を学修し、自分自身が家族というシステムを構成する一部であり、新たな家族を形成する主体者であると認識する。また、家族心理学の理論や概念をもとに新たな家族の形成や家族集団の支援に必要な知識を修得する。	
		家族心理学Ⅱ	「家族システム論」の基本にある全体論的視点をふまえて、家族のみならず、その背景にある社会の中で、家族を捉えていくという立場から、家族が抱える問題の背景にある社会の影響を見据えた支援や対応を行うために必要な家族心理学や家族療法の理論や概念を学修する。家族と社会が相互に影響し合っていることを確認すると共に、家族内に生じる病理についても個人・家族に留まらず、社会にも視野を広げながら支援する方法を考える。	
		司法・犯罪心理学	時代・社会・文化が違えば異常の物差しは一定でなかった背景をふまえて、その中で「異常」と現代日本における触法について考察する。また、そのような心理・行為に対する心理的・社会的な援助のあり方について学修し、実践できるようにしていく。授業を通して、異常心理から触法行為に至る過程を理解し、それに対する司法・医療・福祉などの社会制度を活用できる力を修得する。	
		異常心理学	さまざまな異常心理現象について精神病理学的に講義する。またそれぞれの異常心理現象が社会の中で持つ意味について考察する。臨床的な実例や世間を騒がせた事件の犯人などを例に挙げながら講義する。異常心理について正しい見方ができるようになるために、授業を通してさまざまな異常心理現象のメカニズムとその社会的意味について理解し、説明する力を修得する。	
		精神疾患とその治療	精神医学の基礎としての精神症候学について概説した後、以下の各種精神疾患についての基礎的知識を順に講義する。精神症候学①(知覚・思考・感情の障害)／精神症候学②(意識・知能・記憶の障害)／うつ病・気分障害／統合失調症・精神病性障害／神経症性障害／解離性障害／摂食障害／薬物依存／睡眠障害／てんかん／器質性・症状性精神障害／小児の精神障害／人格と行動の障害 また精神疾患について偏見のない見方ができるようになるために、現代の精神医学の全体像について学修する。	
		精神医学特講	精神医学と社会との関係について、以下のさまざまなトピックを取り上げて講義し、問題意識を喚起する。精神医学における正常と異常／精神医療の歴史(西洋)／精神医療の歴史(日本)／強制入院の制度／精神鑑定と責任能力／電気ショックとロボトミー／薬物療法の問題点／学問・芸術と精神障害／宗教と精神障害／摂食障害と痩せ願望／現代型うつ病の問題／自殺は精神障害なのか／発達障害概念の問題点 また精神疾患について偏見のない見方ができるようになるために、現代における精神医学と社会との関係について学修する。	
		神経・生理心理学	人の高次認知活動について脳機能と構造の観点から考察することにより、現在、脳科学と世間で広く呼ばれる学問領域への理解を深める。授業を通して、ヒトの行動や認知機能について理解し、心の基本的な仕組みを専門的に理解する力を修得する。日常生活や将来の仕事に活かすため、特に人の脳機能や末梢神経系の特性を知り、脳科学や認知科学・認知心理学的な観点から心的活動を説明できる力を修得する。	
		知覚・認知心理学	知覚・認知心理学は、認知科学、情報科学、神経科学、言語学、哲学などと相互に関連しあいつながら、人間の心的活動を究める心理学の一領域である。実験心理学の立場を中心にして、広く人間の心の働きについて考察する。ヒトの行動や認知機能について理解し、日々の暮らしに役立てられるよう、授業を通して、脳科学や認知科学・認知心理学的な観点から心的活動を説明できる力を修得する。	
		産業・組織心理学	産業・組織心理学のトピックに関して、特に行動面に焦点をあてて講義する。主に心理学で得られた知見が我々の労働や組織行動に対して、どのように役立てられるかという点に重点を置く。授業を通して、組織で働く労働者の心と行動の特性について理解し、特に労働者として生きていくために役立つ心理学の知識を修得する。	
		社会・集団・家族心理学Ⅰ	社会や集団は人と人のつながりで成り立っている。その中で、私たちはどのように感じ、考え、振る舞うかについて、特に状況の力に注目して重要な知見を提供するのが社会心理学である。社会的認知や社会的影響に関するトピックを中心に講義し、社会心理学の基礎知識や研究について学修することで、社会や身の回りで起こる問題について考えることができる力を修得する。	
社会・集団・家族心理学Ⅱ	「社会・集団・家族心理学Ⅰ」に引き続き、対人関係や集団過程、家族の人間関係、心の文化差などのトピックについて紹介する。社会や身の回りで起こる問題について考えることができるようになるために、対人関係や集団過程、家族の人間関係、心の文化差に関するトピックを中心に社会心理学の知識や研究について学修する。			
産業心理学実習	企業で役立つ心理学をスイーツを題材として実践的に学修する。特に、定性的な調査や分析を通じて仮説を構築し、論理的に整合のとれた表現で他者に説明できるようにする点に重点を置く。スイーツに関わる心理と行動に着目し、産業界で役立つ心理学の知見や手法を修得するために、授業を通して定性的な分析手法および分析結果の表現方法を実践的に修得する。			

(総合心理学部総合心理学科)				授業科目の概要	
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学科専門科目	臨床心理学・行動科学群	社会心理学実習	社会心理学で扱われるトピックを題材として実践的に学修する。特に、調査・実験の2つの課題により、定量的に心を測定し、統計を用いて仮説検証し、その分析結果をもとに科学的な調査・実験レポートを作成できるようになる点に重点を置く。調査法と実験法の2つの実習課題を行い、いずれの課題も少人数のグループに分かれ、研究計画の立案、調査・実験の実施、データの分析、研究成果の報告を行い、社会心理学の研究手法について体験的に学修する。		
		マーケティング心理学	マーケティング分野における消費者の行動や心理とそれらに及ぼす影響に焦点を当てる。具体的には市場細分化と標的設定、ポジショニングに基づいた、商品開発、製品ライフサイクル、ブランド政策、価格政策、プロモーション政策といった観点から、消費行動に関わる心理を学修する。これまで学んだ心理統計についてマーケティング戦略の文脈で理解する力を修得する。		
		消費者行動論	マーケティング分野における消費者行動に焦点を当て、意思決定や使用に至るまでのプロセスを学修する。具体的には消費者行動の分析の基本フレームや歴史、消費行動と消費パターンの分析、購買行動と意思決定プロセスの分析などを学修する。いずれもこれまで学んだ心理学と親和性の高い内容を取り上げ、大学卒業後の企業活動などで活用される知識を修得する。		
		心理学英語文献講読C	精神分析についての英語文献を読むことで、人間の心や行動について理解を深めるとともに、英語文献の読解力を向上させる。授業を通して、自らの研究を探究するために必要となる英語力を養うとともに、精神分析に関する英語文献を読みその内容を理解し、精神分析の基礎的な理論について説明する力を養う。		
		公認心理師の職責	公認心理師とはどのような資格か、何が求められておりどのような役割を果たすことが求められているのか、そのためにどのように技能や知識を修得していくかを学修する。具体的内容として、職責、法的義務と倫理、安全確保、情報の扱い方、自己課題発見・解決能力、生涯学習、多職種連携・地域連携、そして5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）における具体的な業務内容について学修する。		
		関係行政論	国が定めた法律や制度の各領域における法律や制度の成り立ちや社会における役割をおさえ、それらと公認心理師としての業務がどのように関わるかを、さまざまな資料や事例を通して検討する。授業を通して、公認心理師の業務に関わる法律や制度を学修し、専門家として働いていくために必要な考え方や知識を修得する。		
		心理実習（臨床心理学現場実習）Ⅰ	医療機関を中心とした学外実習・事前指導・事後指導を通じて、実習生が精神疾患や障害に関する知識や、心理支援の現場における専門職の視点や関わり方を体験的に学修する。事前指導において、それぞれの現場に即した心理支援の実際を学修し、実習に行くための基礎知識と心構えを修得する。学外実習においては、それぞれの現場の専門職の働き方を実践的に学修すると共に、施設の利用者や患者と専門的に関わりながら、その方法を修得する。	共同	
	心理実習（臨床心理学現場実習）Ⅱ	医療機関を中心とした学外実習・事前指導・事後指導を通じて、実習生が精神疾患や障害に関する知識や、心理支援の現場における専門職の視点や関わり方を体験的に学修する。事後指導においては、実習体験を振り返り、その学びを深めるとともに、それぞれの現場の専門職からフィードバックを受け、理論と実践を多角的に学修し、公認心理師の基本的な知識と技能を修得する。	共同		
	こども学・健康発達科学群	障害者・障害児心理学Ⅰ	障害児・障害者の能力特性とその心理・行動特性について講義する。障害児・障害者の心理面を理解し具体的な支援についての具体的な知識を得るために、様々な障害児・障害者の支援施設に関するホームページや行政資料を調べ、障害児・障害者への支援への理解を深める。講義と調査を通して、障害児・障害者の心理・行動特性を多角的に理解し、支援方法について具体的に検討、自分ができることを確認する。		
		障害者・障害児心理学Ⅱ	「障害者・障害児心理学Ⅰ」での各障害の特徴や心理特性の理解をふまえて、障害児・障害者を取り巻く環境や社会（家族の心理・虐待対応・社会福祉制度・行政など）について学修する。障害児・障害者の事例作品（小説・ドラマ・映画・漫画など）から、そこで描かれている障害児・障害者の姿についての作品レポートを作成、グループ協議し、障害児・障害者の心理や行動特性を学修する。さまざまな事例を通して、障害児・障害者やその家族の心理、社会福祉の活用について、自分達ができることを考える。		
		こどもとスポーツ	こどものスポーツや健康、それらに関わる安全についての専門的な知識を学修する。具体的には運動、栄養、睡眠、安全管理についての知識を修得する。さらに運動遊びや伝承遊び、身体表現遊びの意義を理解し、運動技能の発達に応じたこどもとスポーツについての知識を修得する。加えて、生涯に渡る健康の維持や増進を促すために、生涯教育といった場面や生活指導の場面にも役立つ知識を修得する。		
		こどもマーケティング	マーケティング心理学の内容についてターゲットをこどもに設定し、具体的な事例を交えながら戦略を立案できる力を修得する。具体的には、問題の設定、リサーチデザインの決定、データ収集と分析の検討、企画書への落とし込みから実践的に学修する。こども中心社会の実現に向けて市民のニーズ、こどものニーズを抽出するための知識や技能を修得する。		
		スポーツ心理学	スポーツ心理学、臨床スポーツ心理学、健康スポーツ心理学、アダプテッドスポーツ心理学について学修する。心と身体（心とスポーツ・運動活動）の関係を学修し、専門的知識を修得し、競技場面や健康指導場面など日常生活に役立てたり、ペアワークや実践することにより理解を深める。授業を通して、心と身体は密接に関わり合っていることを実践を通して学修し、運動スポーツ場面における心理的援助技術を修得する。		

授業科目の概要				
(総合心理学部総合心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目 学科専門科目	こども学・健康発達科学群	ポジティブ心理学	堀毛(2019)『ポジティブなこころの科学』などの教科書を参照し、ポジティブ心理学の研究領域を学術的な視点から幅広く学修する。特にWell beingに着目し、ポジティブ感情、エンゲージメント、ポジティブな関係性、意味・意義、達成感について学修し、各学生の研究テーマについて持続的幸福度の増大という観点から考察する力を修得する。	
		老年学	老年期の人の心理・行動・取り巻く環境などについて、生涯発達心理学、老年精神医学、ケアマネジメントからソーシャルインクルージョン、エンパワメント、Well beingの文脈で理解し、広く老年期を迎えた人について理解を深め、一人ひとりが生き生きと暮らす社会の形成に向けて考察する力を修得する。	
		福祉心理学	社会福祉の基本理念、法律・制度等の基本的事項についての知識を得たうえで、福祉現場に必要な心理アセスメント、心理的支援を学修し、児童・障害・高齢者・虐待等の各現場の心理実践について具体的に考える。マスコミ等で取り上げられる最近の具体的な話題も授業内容に取り入れる。授業を通して、福祉現場で心理的支援が必要な人の課題を理解し、有益な心理実践のための基本的な態度を修得するとともに、他職種と協働しながら、心理職としての主体的な支援を実践するための基本的な知識と姿勢を修得する。	
		精神保健	精神保健の概略として、精神保健の歴史や精神症状の知識等について講義するとともに、精神障害の知識として、以下の事柄を取り上げ、講義する。(1):認知症、脳損傷、薬物依存、(2):統合失調症、うつ病、(3):神経症、ストレス関連障害、摂食障害、(4):精神遅滞、発達障害、てんかん。次いで、精神障害の治療として、薬物療法、精神療法精神科リハビリテーションへの理解、家庭・学校、職場・病院、施設・災害などと精神保健との関係、地域精神保健福祉について理解を深める。	
		生涯学習支援論Ⅰ	生涯学習と学習支援の2つの要素を含む生涯学習支援の理念と構造を講義と演習(事例)を通じて理解する。また、支援のあり方を身に付けるためにグループでの討論などで体験的に学修する。授業を通して、生涯学習やその学習支援が見直されるようになった社会的背景から社会教育の役割を捉え直し、生涯学習支援のあり方、学習支援の具体的な方法として学習プログラムの企画・展開・評価の基本を学修するとともに、学習支援者の資質・能力の形成と向上のあり方等についての知識とスキルを修得する。	
		生涯学習支援論Ⅱ	生涯学習と学習支援の2つの要素を含む生涯学習支援の具体的な内容と方法論を学修する。生涯学習支援の内容と方法の展開に必要なプログラムの企画、プログラムの計画を作成する。授業を通して、生涯学習支援のあり方の基礎・基本、学習支援の具体的な方法として学習プログラムの作成・展開の基本を学修するとともに学習支援者の資質・能力の形成と向上のあり方等についての知識とスキルを修得する。	
		社会教育課題研究	多様化した現代社会において、有効な学修方法の一つである課題解決型学習プログラム(公開セミナー・ゲストスピーカー招請)を教員と相談しながら学生自身が実際に企画、準備・実施・評価する過程を通して、その技法・展開策、学習プログラムの作成方法について学修する。また、新しい時代の現代的課題の動向と展望について考える。公共的かつ現代的課題を取り上げる際に、多くの住民の関心を高め、理解を促進し、諸課題を解決する上で、ワークショップなどの手法を用いた課題解決型学習プログラムは一つの有効な手法である。社会教育課題研究では、その手法の一端を学修し、修得することをめざす。	
		地域連携実践演習A	健康・発達科学専攻の学びを統合する科目として学外実習を計画・立案、実施する。社会教育、生涯学習、行政、公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団-泉北ラボといった学外機関と連携を通じた活動によりPBLを実施し、一人ひとりがいきいきと暮らす地域・社会について考察する力を修得する。	
		地域連携実践演習B	健康・発達科学専攻の学びを統合する科目として学外実習を計画・立案、実施する。学外機関と連携を通じた活動によりPBLを実施する。こどもと多様性という視点から理解を深め、一人ひとりがのびのびと育つ環境について考える力を修得する。	
		社会教育演習	少子高齢化が進む中で、地域社会やコミュニティの構築・活性化や多文化共生の実現など社会問題が現れている。それらの課題を解決・改善していく上で、生涯・社会教育の観点に基づいた活動について学修する。社会教育という学びの場における課題を発見し、その解決方法を考察する力を修得する。また地域貢献の力も修得する。	
社会教育実習	少子高齢化が進む中で、地域社会やコミュニティの構築・活性化や多文化共生の実現など社会問題が現れている。それらの課題を解決・改善していく上で、生涯・社会教育の観点に基づいた活動について、現場実習を通して体得する。授業は、実習準備、実習期間、実習ふりかえり、まとめの作成から構成され、実習先は生涯学習センターや公民館各種公共施設やNPO等が主な対象となる。			
演習科目	専門演習Ⅰ	学生の文献発表とそれに関する討論を中心に学生が主体的に演習を進める。発表担当以外の学生は発表を聞くだけでなく、積極的に疑問点や意見を発言する。他に、臨床場面を想定した体験的学修、商品開発場面を想定したグループワーク、あるいは地域・自治体の社会教育活動や健康増進活動の調査を通じ、社会的な課題と自身の研究テーマを関連付け、視野を広げる。		
	専門演習Ⅱ	「専門演習Ⅰ」での成果をふまえた上で、4年生での研究活動に向けて、主体的な学修を進める。先行研究や社会的課題を網羅的に検索、情報収集し、講読・分析し、研究テーマを確定していく。他者の研究活動を通じて自身の研究活動の参考とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(総合心理学部総合心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科 専門 科目	演習 科目	卒業演習Ⅰ	研究計画の立案と実施に向け、研究テーマに関連する先行研究をまとめ、発表と質疑応答を繰り返すことでリサーチクエスチョンを導き出す。研究活動と将来の進路をタイアップさせることで自己理解も深め、必要となる知識や技能の獲得、スキルアップも目指す。
		卒業演習Ⅱ	演習の最終段階、学修の集大成として、卒業論文・ゼミ論文の完成に向けて準備・執筆を進める。経過報告の発表の折にゼミメンバーからの意見やコメントを考察のヒントに役立てる。必要に応じてメンバーと協力、協働しながら定性・定量データの分析、執筆活動を進め、論理的思考・表現力を身に着ける。
		卒業研究	研究計画の立て方、調査や統計の手法、論文の形式や引用の仕方などを含む、論文執筆全般に関する指導を行う。教員は適宜、必要な情報や技法の探索のための援助を行う。主体的行動力、問題解決力、マナーと倫理性を身に着け社会に貢献し得る力を身に着ける。

## 学校法人帝塚山学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>帝塚山学院大学</b>					<b>帝塚山学院大学</b>				
リベラルアーツ学部					リベラルアーツ学部				
リベラルアーツ学科	120	-	480		リベラルアーツ学科	120	-	480	
人間科学部									令和6年4月学生募集停止
心理学科	130	-	520		<u>0</u>	-	<u>0</u>		
食物栄養学科	120	-	480		<u>0</u>	-	<u>0</u>		
管理栄養士課程 (80)									
健康実践栄養士課程 (40)									
<hr/>					<hr/>				
計	370	-	1480		計	370	-	1480	
 <b>帝塚山学院大学大学院</b>					 <b>帝塚山学院大学大学院</b>				
人間科学研究科					人間科学研究科				
人間科学専攻 (M)	10	-	20		人間科学専攻 (M)	10	-	20	
臨床心理学専攻 (P)	20	-	40		臨床心理学専攻 (P)	20	-	40	
<hr/>					<hr/>				
計	30	-	60		計	30	-	60	